ISSN　2423-9763

東京国際大学論叢

人文・社会学研究

第３号

論　　文

『荘子』天下篇における諸子の順次について　…………………… 水野　厚志……　1

研究ノート

ヘンリー・フィールディングの家族観 …………………………… 澤田　孝史……　13

高度外国人材育成に向けたビジネス日本語の授業とは
──タイのＡ大学卒業生および企業への各種調査結果から─ … 鹿目　葉子……　25
大橋真由美

２０１８

東京国際大学論叢

人文・社会学研究

第3号

『荘子』天下篇における諸子の順次について

水　野　厚　志

The Order of Ideologists in the Text “Tian Xia” of *Zhuang Zi*

MIZUNO, Atsushi

Abstract

In the text “Tian Xia” of *Zhuang Zi*, the ideologists are placed not in chronological order according to their floruits nor in the order of teachers to disciples. They are in the order of how much they followed the philosophy of “Nei Sheng Wai Wang” (Inner Sageness and Outer Kingliness) on which the text “Tian Xia” is written. Due to the special circumstances that the text “Tian Xia” was established during the Chin and Han dynasties, most ideologists in the text are Taoists and Fa Jia ideologies relating to the commandery-county system. At the same time, the ideologists deeply relating to Taoists and Fa Jia such as Huang-Lao Ideology and Xingming Cantong in the early Han dynasty are included. Moreover, it is considered that the ideology of “Nei Sheng Wai Wang” was transformed, influencing the ideology of “governing oneself leading to governing a state” such as *Daxue* great learning after the Han dynasty.

Keywords: 荘子（Zhuangzi），天下篇，諸子の順次，内聖外王，虚静と感應

目　次

はじめに
一.「内聖外王」から見た『荘子』天下篇中の諸子の順次について
二.『荘子』天下篇中の荘子と諸子との關係について
三.「内聖外王の道」から見た諸子の虚静・感應について
まとめ

はじめに

『莊子』天下篇は，現行本では『莊子』の末尾に位置し，後序的役割を擔っている。また，宋代の林希逸『莊子鬳齋口義』・褚伯秀『南華眞經義海纂微』，明末の王夫之『莊子解』より今日に至るまで，歷代の注釋者によって，先秦諸子百家に對する最初の思想史概說として非常に高く評價されてきた。[1)]

天下篇の篇全體は二つの別々の部分から成り，前半部分の篇首では當代の思想について概括した後，諸學派の思想について評價し，莊周に至るまでの諸學派の思想を概括している。また，後半部分では『莊子』書中でもしばしば引用される論爭相手である惠施の代表的な論證命題である「歷物十事」と，惠施・桓團・公孫龍を中心とする當時の詭辯的な論理學の論證命題である「辯者二十一事」を解說し，これを莊周の道の哲學との關連において批判し，論述している。

前半部分は篇首にて古の道術としての內聖外王の道を提示し，その後でそれぞれ師承關係にある五グループについて，①墨翟・禽滑釐・墨子後學，②宋鈃・尹文，③彭蒙・田駢・愼到，④關尹・老聃（老子）⑤莊周（莊子）の順に分析し，莊子に至るまでの內聖外王の過程を描いている。そして，前四者の學問を莊子天下篇の眼目である道の發露としての「內聖外王」と結びつけ，莊子を古の道術の最も正統的な繼承者と捉えた上で，最高の位置付けを行おうとする所に天下篇の作者の意圖が見られる。[2)]

各派ごとに分類されているグループ內の位置付けは，例えば墨家のグループであれば，「墨翟→禽滑釐→墨子後學」というように，後世の同じグループに屬す師から弟子へ，或いは後世の同じ學派に屬す「後學者」グループへと師承されている。そのため，一見しただけでは違和感を感じることはないのだが，天下篇中の諸子の活躍した年代を具に見ていくと，その順次には幾つかの疑問が見られる。

例えば，天下篇の記述順に諸子を擧げ，赤塚忠及び池田知久の分析による各思想家が活躍した年代を付記していくと次のようになる。

①墨翟→前五世紀後半に活躍し，その末年まで在世であったことは，ほぼ確かである。[3)]
禽滑釐→墨翟の高弟
相里勤の弟子→韓非顯學篇に墨は離れて三となる（いわゆる三墨）とある類いか。[4)]
本章は『韓非子』より後の，前漢初期に書かれたもので，分裂は四墨または六墨へと進んでいる。[5)]
②宋鈃→前 360 年頃～前 290 年頃。莊子書中の「宋榮子」，『孟子』告子下等の宋牼と同人物であり孟子より少し先輩の人か。[6)]
尹文→前 350 年頃～前 285 年頃。『呂覽』正名篇によれば，齊の湣王（在位前 300 ～ 284 年）の時代に活躍した思想家。[7)]
③彭蒙→田駢の師
田駢→前 350 年頃～前 275 年頃。[8)]　前四世紀末～三世紀前半に活躍。[9)]
愼到→前 350 年頃～前 275 年頃。[10)]
④關尹・老聃→『史記』などの記述によれば，關尹は老子の弟子であるが，天下篇が老聃よりも先に關尹を擧げているのは，單に便宜上の配置によるものか，理由のあることなのか，明らかでない。[11)]
以上のように，池田知久によって補足された箇所も參考にすると，田駢を前四世紀末～三世紀前半に活躍した人物としていることから，②宋鈃・尹文のグループと③彭蒙・田駢・愼到のグルー

プは年代順に竝べるのならば，入れ替えるべきである。また，赤塚忠の分析のままでも「彭蒙は田駢の師である」と天下篇にあるので，田駢より少なくとも十年以上は遡ることができるであろうから，②の宋鈃よりも前の時期に活躍していたと考えるべきである。

また，活躍した年代から墨翟が冒頭に置かれているのは問題は無いが，池田知久の指摘するように「相里勤の弟子」に關しては，秦漢の際にその下限が求められることから，單純に各思想家集團が年代順に置かれているとは言うことが出來ないのである。

さらに先に述べたように，各思想家集團は基本的に同じグループに屬す師から弟子へ，或いは後世の同じ學派に屬す「後學者」グループへと師承されているのであるが，關尹は老子の弟子であるということが一般的に認知されている中，關尹から老聃への順次には違和感を覺えずにはいられない。このことに關してはかつて白川靜も「關尹・老聃」と順序が變えられていることが注意されると疑義を唱えている。[12)]

以上のことから，各思想家集團の順次，グループ内の順次において，本來の年代順によらない不自然な配列となっている事が分かる。本論文ではその順次について，天下篇の中心を爲す「內聖外王」の面と，當時の政治的背景の兩面からその配置されている原因を探ろうというものである。

一．「內聖外王」から見た『莊子』天下篇中の諸子の順次について

「內聖外王」と『莊子』天下篇の關係については，先に拙論の中で觸れたことがあるが，改めてその概略を述べて，「內聖外王」との關連性について見ていくこととしたい。

「內聖外王」という四字句の濫觴は『莊子』天下篇であり，福永光司の言葉を借りれば「無爲自然の道を內に抱く聖人，それを外に用いて萬物を化育する帝王の道」である。[13)]

福永光司は，いにしえの道術―內聖外王の道―の傳統と繼承の問題をはじめに提示した天下篇は，以上を序論として，この後 當代の思想界の山脈を檢討整理しながら，その傳統と繼承の跡を，墨翟より莊周に至る五つの思想家集團の學問にそれぞれ指摘する。そして，前四者の學問を莊周の學問（道の哲學）と關連づけ，もしくは系列づけながら，莊周の哲學を古の道術の最も正統的な繼承，それの最も根源的本質的な把握として，最高の位置づけを行おうとするのが，いうまでもなく天下篇の作者の意圖であるという。[14)]

墨翟から莊周に至る學問の中に，古の道術―內聖外王の道―の傳統と繼承を分析していくのが，次の章から惠子までの部分であり，莊周の哲學を古の道術の正統的な繼承者とし，最も根源的本質的な道の體得者として，最高の位置づけを行おうとする點に主眼を置いている。

莊周の後には惠施への分析が後接するが，後述するように前五章とは趣を異にしている。ここでは，墨翟から莊周（莊子）に至る古の道術―內聖外王の道―の傳統と繼承について，簡單に見ていくことにする。[15)]

冒頭の墨翟・禽滑釐に對する批判は，「今 墨子だけは生きているときには歌を歌わず，死んでしまっても喪に服することはせず，三寸の質素な桐の內棺だけで外槨は無い（今墨子獨生不歌，死不服，桐棺三寸而無槨）」とあり，「墨子の道は餘りにも情に薄く，人を嘆かせ，悲しませ，其の實行は困難である。恐らく墨子の道は聖人の道ということはできない。天下の人心に反し，誰もが堪えられない。墨子だけが行うことが出來るといっても，世の中の人々はどうにもできない。世の人々から離れてしまったならば，王道にはほど遠い（其道大觳，使人憂，使人悲，其行難爲也。恐其不可以爲聖人之道。反天下之心，天下不堪。墨子雖獨能任，柰天下何。離於天下，其去王也遠矣）」とあり，內聖面の不足を衝き，同時に外王の側面についても痛烈に非難している。[16)]

更に後に續く文では,「墨翟・禽滑釐の考え方は合っているが,其の行い方は間違っている。後世の墨者に,腓や脛に毛が無くなるほどの苦行を押しつけているだけである。世を亂す方策としては最高だが,天下を治める方策としては最低だ。そうはいっても,墨子は本當に世の中の人々を愛したのである。世の中に道を得られなければ,骨と皮ばかりになってしまっても理想の追求を止めなかったのである。才士なるかな(墨翟禽滑釐之意則是,其行則非也。將使後世之墨者,必自苦以腓無胈脛無毛相進而已矣。亂之上也。治之下也。雖然,墨子眞天下之好也。將求之不得也,雖枯槁不舍也。才士也夫)」と結ばれている。

禹に擬えた行き過ぎた刻苦を,「世を亂す方策としては最高だが,天下を治める方策としては最低だ」とここでも同様に酷評しているが,節末では「才子なるかな」と道術の一端である方術を維持している者としての最低限の評價も與えている。[17)]

續いて宋鈃・尹文であるが,文中に「以此白心」とあるのに注目される。「白心」は,「自分の心を淸らかに保つこと」であり,道家思想の「虛靜」と共通する項目である。

福永光司は宋鈃について,「內篇逍遙遊篇に內外の分を定め,榮辱の境を辯ずと記され,『韓非子』(顯學篇)に宋榮の寬恕と評されている宋榮,また『孟子』(告子篇下)に孟子との對話が載せられている宋牼と同一の人物で,無抵抗主義の反戰論を唱え,白心(精神の淨化)と寡欲を說いた。尹文は『呂氏春秋』(正名篇)や『說苑』(君道篇)などにその言行が記錄され,同じく無抵抗主義の反戰論者。いずれも孟子や莊子とほぼ同時代である」という。また,「墨子學派の次に宋鈃・尹文の學說が取りあげられているのは,論理學と反戰の主張が墨子のそれを繼承すると見たからであろう」とする。「別宥」は別囿とも書き,『尸子』(廣澤篇)や『呂氏春秋』(去宥篇),『尹文子』(大道篇)などにも見える名家(論理學派)的な用語であり,ある言葉の概念內容の領域範圍を辯別して明確に概念規定すること。たとえば,物と我,內と外,榮と辱,善と惡,白と黑などの慨念規定を明確にして,混亂させないのが別囿である。逍遙遊篇に宋鈃(榮子)を批評して「內外の分を定め榮辱の境を辯つ」といっているのもまた一種の別囿である。[18)]

道術の一端を擔っている方術としての宋鈃・尹文に對する評價は,白心の境地にまでは至っていないものの,「萬物に接するには言葉の概念規定をはっきりさせることを手始めに爲した(接萬物以別宥爲始)」,「侮辱されても屈辱としないことを旨とし,人々の闘爭を止めさせ,攻擊を禁じ武器を廢止して,世の中の人々の闘爭を止めさせようとした(見侮不辱,救民之鬥,禁攻寢兵,救世之戰)」という二句に盡くされており,同樣の評價は節末に置かれた二人を總括する「他國への攻擊を禁じ武器を廢止することを外面の問題とし,情欲を少なくすることを內面の問題とした。宋鈃・尹文の主張の小さいもの大きいもの精なるもの粗なるもの,其の行動はまさに是に集約されている(以禁攻寢兵爲外,以情欲寡淺爲內,其小大精粗,其行適至是而止)」の一文でも改めて強調されている。要するに侵略の禁止を外に向って說き,情欲の抑制を內である自身に課すという事である。

なお,宋鈃・尹文に對する批判は,墨翟・禽滑釐に對するものと比べると,穩やかではあるが存在する。次の一節である。

「しかしながら,宋鈃・尹文は他人の爲にすることが餘りにも多いのに,自分の爲にすることはほとんど無い。まずは五升の飯が手に入るならそれでいいという。兩先生でも恐らく腹一杯にはならないだろう。弟子たちは飢えていても,世の中のことを忘れず,日夜休息も取らない。我々はきっと人々を救えるだろう,とまでいう。なんと壯大であることか。救世の士であるなぁ(雖然,其爲人太多,其自爲太少。曰,請欲固置五升之飯足矣。先生恐不得飽。弟子雖飢,不忘天下,日夜不休。曰,我必得活哉。圖傲乎。救世之士哉)」。墨家の流れを受ける反戰や寡欲の面での主

張は良い（「圖傚乎。救世之士哉」と評價されている）が，外王面ばかりに目を向け，內聖面で自己を傷つける（「其爲人太多，其自爲太少」）ことについては，「五升の飯」を例に出して暗に批判しているのである。[19]

天下篇では次に彭蒙・田駢・愼到を擧げている。

武內義雄は田駢・愼到について，「兩者はともに列子の貴虛說から出發しているが，前者は論理的に之を發展せしめて齊物哲學に到達し，後者は實際に之を適用して尙法主義に轉換した。そうして前者の哲學は莊周の先驅をなし，後者の主張は韓非の淵源をなしている。從って愼到は道家が轉じて法家に成る轉換期に立つ人である」とする。[20]

彭蒙・田駢・愼到それぞれが依據する古の道術については，「公平で偏らず，平等で私心が無く，決然として先入觀がなく，萬物に順應して分け隔て無く，思慮分別を用いず，智謀を働かせず，是非善惡で物を選擇することなく，萬物と一體化して行動する。昔の道術にはこういう傾向のものがあった（公而不當，易而無私，決然無主，趣物而不兩，不顧於慮，不謀於知，於物無擇，與之俱往，古之道術有在於是者」）とし，「之と俱に往く（與之俱往）」とあるように，道との一體化を說いている。

そして，その一端を傳える方術について，「萬物を齊しくして以て首と爲す（齊萬物以爲首）」と文中にあるように，「萬物を平等と見る根本的な立場を自らなる“一”の世界である道と考えている」ことが見て取れるので，『莊子』萬物齊同の思想との關連性がより深化しているということが出來る。

この後に愼到についての記述が續くが，冒頭に「愼到は知を捨て己を否定して，外界の事物のやむをえない必然の理法に從った上で，それを受け入れることを眞の道と考えた（是故愼到棄知去己而緣不得已，泠汰於物以爲道理）」とある。ただしそうした考えは世間に受け入れられることはなく，世間から「賢聖の知惠を用いる事の無いあの土くれは無知であって自然の道を失う事は無い。天下の豪傑たちはこの說をあざ笑い，愼到の唱える道は，生きた人間の行いとなるものでなく，死んだ人間に通用する道理となるものだ（无用賢聖，夫塊不失道。豪桀相與笑之曰，愼到之道，非生人之行而至死人之理）」といわれている。

田駢の立場は法家の思想に極めて近く，先程擧げたように『漢書』（藝文志）法家の條に『愼子』四十二篇を載せていることから，ここでの彭蒙・田駢・愼到は道家に近い描かれ方をしているものの，法家としての立場を守っていると言えるであろう。[21]

彭蒙・田駢・愼到の後に續くのは，關尹・老聃（老子）である。

關尹・老聃の道術に，「萬物の根源である道を精微なものとし，形態ある物を粗雜なものとし，物質的な蓄えを不充分なものとし，恬淡無欲で神明の本性といっしょになろうとする（以本爲精，以物爲粗，以有積爲不足，澹然獨與神明居）」というのは，無爲自然の道を內に抱く聖人そのものを描いている。また，方術については，「道と物との對立する學說を立て，太一によって主宰させ，外には柔弱で謙虛な態度を推し出し，內には心を空虛にし萬物を損なわないように努めた（建之以常無有，主之以太一，以濡弱謙下爲表，以空虛不毀萬物爲實）」といっているのは，濡弱謙下の態度であって，外に用いて萬物を化育する帝王の道そのものである。「濡弱」は，柔弱。『老子』第三十六章に，「柔弱は剛强に勝つ」。また同第七十六章に，「人の生まるるや柔弱，其の死するや堅强」とある。「謙下」は，へりくだること。[22]

「自分に執着を持たなければ，形ある萬物はおのずからありのままの姿を現す（在己無居，形物自著）」とは，『老子』第二章に，「（聖人は）功成りて居らず」とあり，後接する文中にある「人皆 先を取りて，己れ獨り後を取るなり」，「己れ獨り曲にして全し」と併せて考えてみると，先の

「濡弱謙下を以て表と爲す」と同樣，『老子』特有の逆說の表現をとりつつ却って積極的に表（外）に働きかける意味を含んでいることが分かる。明らかに內面外面ともに老子が中心になっていて，關尹については師承關係というよりも關連人物として名前が擧がっているだけの印象を覺える。

節末の「常に物に對して寬容な態度を取り，他人に對して危害を加えるような事をしない。これは至上最高の立場と言うことが出來る。關尹や老子は古の道術を得た偉大な眞人である（常寬容於物，不削於人，可謂至極。關尹・老聃乎。古之博大眞人哉）」という表現からは，一切貶辭は傳わってこないが，「可謂至極」は「雖未至於極」・「雖未至極」（未だ極に至らずと雖も）に作るテキストもある。この後に續く莊子の「未だ之を盡くさざる者（未之盡者）」とある評價と同樣に，或いは外王面の不足ということでこうした表現がとられていたことも考えられる。

「博大眞人」についても，張涅など一部の學者は，「內聖外王を究極の目標にする上で，老子は內聖だけしか達成しておらず，眞人も天下篇に「不離於眞，謂之至人」とあることから至人にすぎず，究極の境地に達しているとは言えない」とし，莊周の哲學を古の道術の最も正統的な繼承者とし，最も根源的本質的な把握者として，最高の位置づけを行おうとするところに天下篇の作者の意圖があると見ている。

以上，天下篇中の諸子の順次による變遷について見てきたのであるが，拙論にて論證していったように，天下篇での內聖面・外王面での過不足は，莊子に到って解消されていることから「關尹・老聃」の順次も，內聖面・外王面ともに關尹に比べて老聃の方がより一層深化向上し，內聖外王の完成に近づいていると考えられるからこそ，敢えてこの順次になっているものと思われる。また，諸子の順次についても「關尹・老聃」と同樣，內聖外王の充足の度合いに從って配置されているのであり，思想家の活躍した年代とは必ずしも一致していないのである。それでいて讀むものに對して違和感を感じさせないのは，やはり篇全體が內聖外王の思想によって統一されているからである。

なお，陳贇は「內聖外王之道」について，中國の政敎生活の中で最も核心の問題であり，「道術と方術」の辯を通して莊子は方術の中から道術の可能性を見いだしたとする。

また，天下篇全體は「總論」と「六家の學を論じた箇所」に分けられるが，「總論」については，「道術と方術の辯」・「神・明・聖・王は一に原づく」・「人性の七種の類型」・「內聖外王之道の分裂と經史子知識の系譜の形成」といった問題の指摘をしつつ，全體のごく一部分である「總論」を中心に論を展開している。そして，天下篇の本論である「六家の學を論じた箇所」では，「神・明・聖・王」のよりどころである「一」としての道術は，今に至るまで惠施以外の學では發端として殘っているとし，その道術と方術との關係について述べている。道術に通じることは，天道（神）・地道（明）・王道・聖道の繋がりと整合を要求されるが，「天下篇」では「神・明・聖・王」の下，（「總論」中の天人・神人・至人・聖人・君子・百官・萬民の）七種類に配分され，政敎文明の人性の基礎を明らかに示している。また，七種類の中でも聖人だけが天人に通じることができ，聖王の事業を請け負うことができる。だから人類の政敎文明のシステムの中で，聖人は中心的な地位を占めているのであると主張する。

陳贇は「天下篇」の總論を中心に「神・明・聖・王」と「人性の七種の類型」を關連付けて全體の論を構成しているが，本論文では「天下篇」の中心をなす「六家の學を論じた箇所」におけるそれぞれの諸子の思想も內聖と外王で構成されていると捉えている點に大きな違いがある。[23]

二.『莊子』天下篇中の莊子と諸子との關係について

關尹・老聃の後に內聖外王の理想的な修得者で正統的な繼承者として置かれているのが莊子である。

莊子の道術について,「ひっそりと靜まりかえって形がなく，常に變化して定まった姿が無い。死んでいるのか生きているのか，天地とともにあるのか，靈妙にして聰明な造化のはたらきとともに動いているのか。おぼろげで何處に行くとも知れず，ぼんやりとして何を目指すのかも分からない。萬物はそこにすっかり備わっているのだが，それは賴むに足りない（芴漠無形，變化無常，死與生與，天地竝與，神明往與。芒乎何之，忽乎何適，萬物畢羅，莫足以歸)」といっているのは,「寂漠无形，變化无常」の道を內に抱く聖人を描いている。また方術については,「取り留めの無い辯舌や，荒唐無稽の言論，常識外れの言葉をほしいままに操って，その時々の自由に任せながら群れず，一面的な見方にとらわれることはない。世の中の人々は深い汚濁の中に落ち込んでいて，まともに話の出來る相手ではないと考え，卮言によって變化のきわまり無い世界を述べ，重言によって眞實を示し，寓言によって廣く一般化した。ただ自分だけが天地自然の靈妙な働きとともに往來しながら，萬物の上に立っておごり高ぶるような事は無い。また是非の區別を嚴しく追及したりすることも無く，世俗の中に身を置いている（以謬悠之說，荒唐之言，無端崖之辭，時恣縱而不儻，不以觭見之也。以天下爲沈濁，不可與莊語；以卮言爲曼衍，以重言爲眞，以寓言爲廣。獨與天地精神往來，而不敖倪於萬物，不譴是非，以與世俗處)」と描かれている。そして,「不譴是非」とあるのは，墨家の堅白論から始まり，田駢の齊を貴ぶ思想に至る間の論理學の流れに棹さし，一應の歸着點を見いだしているのである。

以下，この節の節末には,「雖然，其應於化而解於物也，其理不竭。其來不蛻，芒乎昧乎，未之盡者」の一文がある。

文頭の「雖然」は，倒置している文中で用いられている譯ではないので，單純に前に述べている文に對する反對の意思を傳えている。「雖然」の直前には「可謂稠適而上遂矣」（稠適して上遂すと謂ふべし）とあり，道の悟入を極め調和していることを表現しているので，その至極の狀態を否定する文が後接するべきである。福永光司はこの部分について次のように解している。

「彼の道の哲學はかくもすばらしい。とはいえ，彼が千變萬化する對象世界に對處して，森羅萬象の在り方を解說するとき，彼の說明する眞理は言知では盡くせぬ深さをもち，その眞理の事象の世界への顯現は無際限である。それは芒々として捉えどころがなく，ぼんやりとして人間の認識を寄せつけず，彼の鬼才をもってしても究めつくすことのできない無限の深さをもつのである」と。[24]

それぞれの思想家は，古の道術－內聖外王について，論理學的な側面も含めて，莊子に向けて向上していっているように見受けられる。

例えば,「物に對する追求」といった論理學的な側面では，ただ辯別に心を寄せるだけの「後世之墨者」で扱われていた「堅白異同之辯」から，宋鈃・尹文の「別宥」，彭蒙・田駢・愼到の「齊萬物以爲首」，さらには莊周の「不譴是非」へと深化している。これは同時に天下篇冒頭の總論の中に「天地の美を判ち，萬物の理を析つ（判天地之美，析萬物之理)」といった論理的分析によって，內聖外王が蔽われ明らかにされないのだと解いていることにも結びつく。

各思想家が詭辯を弄すことによって道術が分裂してしまったものが，同じ思辯によって萬物齊同－道の悟道へと深化していることを表しているからである。

また，內聖外王については，冒頭の墨翟・禽滑釐では，內聖の面は非樂・節用・薄葬が，外王の面は氾愛（博愛）・非攻が擧げられているが，何れも全て行き過ぎているということで，酷評されている。それが，宋鈃・尹文になると內聖の面は「以情欲寡淺爲內」・「白心」が，外王の面は「以禁攻寢兵爲外」が擧げられているが，穩やかな批判に落ち着いている。また，彭蒙・田駢・愼到では，內聖の面は「(愼到) 棄知去己」・「得不教焉」があり，同樣に穩やかな批判に落ち着いている。そして關尹・老聃では內聖の面は「以空虛不毀萬物爲實」が，外王の面は「以濡弱謙下爲表」が擧げられ，「古之博大眞人哉」と評價されていて貶辭は全く見受けられない。その後に續く莊周であるが，「未之盡者」と評價されており，莊周の哲學を古の道術の最も正統的な繼承者とし，又最も根源的本質的な把握者として，最高の位置づけを行おうとするところまでには至っていないように見受けられるが，この問題については，以前拙論にて後ろに後接する文があり，莊周の哲學を總括している可能性について述べていった。[25]

また，本篇の最後の章は「惠施」についての專論であり，天下篇の先秦諸子を評論する性格を考えれば，天下篇に入れるのは不自然ではない。しかし，崔譔・向秀注と司馬彪注との出現を確認すると，第七章には司馬彪の注しか見られない。[26]

天下篇は篇の後半に向けて莊子へと內聖外王に係わる思索が深化していっているだけでなく，篇末に置かれた文は，辯者惠施個人に對する批判であり，このことからも天下篇全體を總括した文であるとは到底考えられず，本來別の一篇が天下篇の後半に付けられてと考えるのが自然である。そこで當論文では辯者惠施に関しては，天下篇から切り離して考えることにした。

以上のことから，天下篇では內聖面と外王面の雙方の過不足から各思想家を分析し，その兩面の最も調和のとれた理想的な思想家として莊子を据えているということが分かる。また，天下篇の中心を爲す「內聖外王」の思想であるが，諸子の思想と相矛盾し撞着するものではないのである。

三.「內聖外王の道」から見た諸子の虛靜・感應について

「內聖外王」は「無爲自然の道を內に抱く聖人，それを外に用いて萬物を化育する帝王の道」であり，「寂漠无形，變化无常」の虛靜の道を內に抱く聖人は，莊子書中でしばしば言及される心齋や坐忘を通過することで達成される。心齋は，心の齋（ものいみ）を通して萬物の理法と一體になること，坐忘は，論理・倫理・道德上の要諦を段階的に捨て去り，自然と萬物の理法と一體になることである。虛靜の狀況で齋をし，感應の信仰に立つ神憑りによって聖人王者となり得るのであるから，虛靜の狀況下で齋を行うことは內聖（內靜でもあり，內正でもある）面の充足であり，聖人王者の存在としての神憑りの感應は外王としての政治の實踐でもあり，儒家・道家ともに持ち合わせているものである。

板野長八によれば，聖人・王者の虛靜無爲の態度は道を體得したものと看做され，聖人・王者となり得る資質でもあったが，それは老子では（虛）靜を通じて得られる「無爲にして爲さざるは無し（無爲而無不爲)」であり，孔子の場合，齋することによって虛靜を通じて（天と）感應することであり，莊子の場合，齋することによって虛靜を通じて道や鬼神と交わり，眞人となることであった。[27] もっとも，それぞれには過不足があり，時代や各思想家の受容による相違も見られる。

例えば，老子では感應の信仰に立つ巫祝の神憑りによって「無爲にして爲さざるは無し（無爲而無不爲)」の政治的實踐は行われるのであり，神憑りの體驗を整理した老子の道は天の道であるが，同時に主宰者であり，天帝であって，それ自身鬼神であった。それに對して莊子は心齋・坐

忘・朝徹によって天の賦與した本質（天・神・眞）を保全し，是非を兩行させ，物を齊しくし，萬物に因ることを本旨としている隱者の思想であって，老子の覇者の思想とは異なるのであるが，正しければ靜なり。靜かなれば明かなり。明かなれば虚なり。虚なれば爲すことなくして爲さざることなし（『莊子』雜篇庚桑楚篇）とあるように，虚靜無爲となるための具體的な言語と，虚靜無爲となれば明かであり，全能であり得ることを示すものであって，老子と同樣「無爲にして爲さざるは無し（無爲而無不爲）」といった「外王」としての一面を持つものでもあった。[28)]

また，天の賦與した本質の保全は莊子の「內聖」面の充足そのものであるが，內篇では「天・神・眞」，外篇では「性」，雜篇では「誠」がそれぞれ中心となっており，その推移にはそれぞれの篇が作られた時代背景が影響しているのである。また，その幅廣さバリエーションの多さから，本來莊子が重視してきたのは「外王」の思想よりも「內聖」面の擴充充足であったことが理解されるのである。

以前，拙論の中で論證していったが，もともと政治に對する關心が強くなかった莊子は，各篇の成立年代に潛む時代背景に從って，次第に政治色を強めていくことになったのである。[29)]

また，「爲さざる無し（無不爲）」という老子と類似する積極的な政治への參與は，恐らく秦漢の際という時代背景が影響を大きく與えているのであり，封建制か郡縣制（郡國制）かという國家體制に大きな變動變革をもたらした特殊な事情もあったのである。

板野長八によれば儒家の理想は封建制であり，その旨とするものは「孝悌」に集約されるのであるが，道家・法家での理想は郡縣制であり，その旨とするものは「忠臣」に集約される。[30)]

天下篇の中に表立って儒家の思想家が現れていないのは，恐らく作品が作られた當時，すでに儒家が理想とした周初の封建制から道家・法家の理想とする郡縣制へと移り變わっていたからではないかと思われる。このように，『莊子』が郡縣制に寄り掛かり天下篇に儒家の思想家が現れないため，『莊子』書中に全くその思想が反映されていないかといえば，それは當たらない。

例えば，『莊子』外篇の性は，荀子の性惡說・天人の分に基づく性僞の分に對抗するためのものであったと考えられる。外篇中には荀子の僞を否定する文が散見するからである。また，『莊子』外篇は性，『莊子』雜篇は誠を荀子等から受け入れ，「天・神・眞」を表明し，荀子に對抗した。さらに，外篇知北遊は板野の言葉を借りるならば「僞を逆用して荀子の禮を排斥しつつ儒家と對立しながらも接近していっている」のである。[31)]

荀子において聖人の心は「虚壹靜」なる大淸明の狀態にあるとされ（解蔽篇），他の諸子同樣荀子が天人の分の立場に立ったのは，老子莊子の人道・禮の否定を否定して人道・禮を再確認したためであり，『莊子』においては人爲・知を否定する眞知，覺醒としての知のみが中心となっていたのに對して，『荀子』には祭・齋による神憑りの體驗の展開が見られる。こうした原初的な巫祝の神憑りという內聖面の思想は諸子の中にも見られ，皆 感應信仰に立脚している。[32)]

そもそも莊子は，萬物の性に任せ，萬物に因り，眞を保ち，無窮に應じ，是非を兩行し，天均に休み，保性全眞して尙且つ政治的理想である在宥（無爲の治）の實現へと移行していったのである。そして板野長八には，天下篇よりやや遲れて成立した『淮南子』詮言訓には儒家，特に『大學』の政治論に極めて接近したものがあるという大變示唆に富む指摘がある。[33)]

卽ちそれは，所謂「修己治人」であって，格物から致知に到るまでの全て禮に準據して行われなければならないものである。「內聖外王」と「修己治人」とでは，その出發點と目標とは同じであるが，一つは人道・禮を排して出發點と目標との間に順序・階梯は無く，內聖卽外王であったが，一つには禮に準據した人道上の順序・階梯がある。『淮南子』詮言訓の文は，莊子を始めとする「道家者流」が荀子等儒家との鬩ぎ合いの中から「內聖外王」より更に禮に準據し順序・階梯を持った『大

學』の政治論に接近していったものである。今後，秦漢の際に活躍した士大夫の言動に注目することにより，兩者の關係は一層はっきりするものと思われる。[34]

まとめ

爲政者の在り方としては，天下篇の「内聖外王」，『大學』等の「修己治人」・「治身治國」といったテクニカルタームを擧げることが出來る。また，「内聖外王」については神憑りの巫祝が感應して王者・聖人となるように，「内聖卽外王」なのであり，楠山春樹の「仙王」の思想同様，秦始皇や漢の武帝のような爲政者も感應して王者・聖人となり，（實際には實現しなかったが）不老不死の仙人でもあったのである。以上の點は，禮に準據した人道上の順序・階梯を持つ「修己治人」とは性格を異にしている。[35]

そもそも天下篇は，儒家・法家というような所謂諸子百家として分類されてはいない。このことから，目錄學の祖型を作ったといえる司馬談の「六家之要旨」よりも恐らく先行する作品ではないかと思われるが，天下篇での思想家の竝び順は結果として，『史記』所收の司馬談「六家之要指」の陰陽家・儒家・墨家・名家・法家・道家と非常に近いものがある。[36]

恐らく兩者には何らかの深い關係があるものと思われる。

また，天下篇が作られたのが秦漢の際という政治的變革期に當たっていたことも順次に影響を與えていると考えられる。孔子・孟子と言った儒家は孝悌を中心とする封建制を理想としたが，道家・法家は忠信を中心とする郡縣制を理想とする。天下篇が作られた時期も郡縣制の登場と軌を同じくするのであり，當時活躍をしていたのは黃老思想・形名參同を信奉する者たちであって，道家・法家もその黃老思想・形名參同と關わりが深かったからである。

「治身治國」は「内聖外王」とはその性質が異なり，段階的に順を追って理想的な統治者になることを旨としている。また，「内聖外王」は，秦漢の際のようなこれから本格的な統一王朝が成立しようという政治的變革期の作品に現れるのに對して「治身治國」は統一王朝が軌道に乘った後の，主に儒家サイドから提唱された爲政者の在り方を示したものである。

「治身治國（唐の時代には，玄宗皇帝による理身理國という言葉まで現れている）」は，漢以降長きに亙って用いられていくのであるが，「内聖外王」は歴史上次に現れる大きな變革期，卽ち科擧による官吏登用試驗の本格的始動，地方分權の進捗によって世の中に大きな變化の現れた宋代に入り，出發點と目標との間に順序・階梯を必要としない内聖卽外王（場合によっては，「外王卽内聖」であることもあり得る）の思想が再び日の目を見ることとなったのである。[37]

「内聖外王」と「治身治國」との關係について論を進めていくためには，司馬談の「六家之要旨」，『淮南子』覽冥篇・要略篇，修身・治身に目を向けている『呂氏春秋』仲春紀貴生篇・季春紀先己篇等の思想史的かつ目錄學的な文獻と天下篇を比較し，尙且つ黃老思想との關係において，重要な役割を擔っている法家の刑名參同の影響を明らかにすることによって，ようやく有意義な結論が得られると思われる。以上については，當論文の要旨から離れるので，ここで論證することはしない。今後，機會が許せば改めて取り上げることにしたい。

注

1） 例えば，王夫之『莊子解』天下篇卷頭の一行目に「歷述先聖以來，至於己之淵源，及史遷序列九家之說，畧同」とある。王夫之（1964），王孝魚點校『莊子解』，北京：中華書局，P. 277・水野厚志「『莊子』天下篇の〈内聖外王〉について」（『東京國際大學論叢』言語コミュニケーション學部編，第十一號，2015），P. 95

2）水野厚志「『莊子』天下篇の〈內聖外王〉について」（『東京國際大學論叢』言語コミュニケーション學部編，第十一號，2015），P. 95
3）赤塚忠『全釋漢文大系17莊子下』，（集英社，1980），P. 716
4）前揭『全釋漢文大系17莊子下』，P. 722
5）池田知久『莊子下』，（學習研究社，1978），P. 684
6）赤塚忠『全釋漢文大系16莊子上』，（集英社，1974），P. 37
7）前揭『莊子下』，P. 686
8）前揭『全釋漢文大系17莊子下』，P. 738
9）前揭『莊子下』，P. 687
10）前揭『全釋漢文大系17莊子下』，P. 738
11）前揭『全釋漢文大系17莊子下』，P. 751
12）白川靜『孔子傳』，（中央公論社，1991），P. 212
13）福永光司『中國古典選17莊子（雜篇・下）』，（朝日新聞社，1978），P. 196・前揭「『莊子』天下篇の〈內聖外王〉について」，P. 94
14）前揭『中國古典選17莊子（雜篇・下）』，P. 198・前揭「『莊子』天下篇の〈內聖外王〉について」，P. 100
15）前揭「『莊子』天下篇の〈內聖外王〉について」，PP. 100-101
16）前揭「『莊子』天下篇の〈內聖外王〉について」，P. 101
17）前揭「『莊子』天下篇の〈內聖外王〉について」，P. 102
18）前揭「前揭『中國古典選17莊子（雜篇・下）』，PP. 208-209
19）前揭「『莊子』天下篇の〈內聖外王〉について」，P. 103
20）武內義雄『中國思想史』，（岩波書店1936），PP. 72-75・前揭「『莊子』天下篇の〈內聖外王〉について」，P. 104
21）前揭「『莊子』天下篇の〈內聖外王〉について」，P. 104
22）前揭『莊子 雜篇』，P. 496・前揭「『莊子』天下篇の〈內聖外王〉について」，P. 105
23）張涅（2000），『浙江海洋學院學報』第17刊3期所收“《莊子・天下》學術史意義札記”中國：浙江海洋學院，P. 21・前揭「『莊子』天下篇の〈內聖外王〉について」，P. 106。
　陳贇（2015），第43巻第4期所收「《莊子・天下篇》與內聖外王之道」：安徽師範大學學報（人文社會科學版），PP. 454-476
　なお，「神・明・聖・王」と「一」との關係を精緻に論じたものに，張文江（2013），『莊子・天下篇』講記，上海文化がある。張文江は「神・明・聖・王」の「神・明」は自然領域に相當し，「聖・王」は社會領域，或いは政治領域に相當するとする。
24）前揭『中國古典選17莊子（雜篇・下）』，PP. 233-234・前揭「『莊子』天下篇の〈內聖外王〉について」，P. 107
25）水野厚志「〈郭象莊子序〉の眞僞について」（『東京國際大學論叢』人文・社會學研究，第1號，2016）を參照。
26）黃華珍，『莊子音義の研究』，（汲古書院，1999），PP. 288-289
27）板野長八『中國古代における人間觀の展開』，（岩波書店，1972），PP. 40-41およびPP. 108-109
28）前揭『中國古代における人間觀の展開』，P. 322，P. 324およびPP. 567-568
29）水野厚志「『莊子』の政治思想とその展開」（『東京國際大學論叢』人文・社會學研究，第2號，2017）を參照。
30）板野長八『中國古代社會思想史の研究』，（研文出版，2000）を參照。
31）前揭『中國古代における人間觀の展開』，PP. 126-127およびP. 327
32）前揭『中國古代における人間觀の展開』，P. 148，P. 175，P. 267，P. 569
33）前揭『中國古代における人間觀の展開』，PP. 443-445
大變重要な指摘なので，煩を厭わず次に該當箇所を擧げる。
　即ち，「治を爲すの本務は安民にあり。安民の本は足用にあり。足用の本は時を奪うことなきにあり。時を奪うことなきの本は省事にあり。省事の本は節欲にあり。節欲の本は反性にあり。反性の本は載を去るにあり。載を去れば虛なり。虛ならば平かなり。平かなるは道の素なり。虛なるは道の舍なり」とある。性に反えること，道を體することを根本とし出發點としながら，節欲・省事・時を奪わないこと・

足用・安民を説く所は儒家等と撰ぶ所はない。そして，節用・節欲のための基準・規範を必要とするが，それは儒家の禮の如きものではなく，天理・節・分であったであろう。そして，節用・節欲と言っても實は自からならざるものを去ることで虚靜無爲となることであろう。更に，詮言訓には，「よく天下を有するものは必ずその國を失わず。よくその國を有するものは必ずその家を喪わず。よくその家を治むるものは必ずその身を虧がず。よくその身を修めるものは必ずその心を忘れず。よくその心を原ねるものは必ずその性を虧がず。よくその性を全うするものは必ず道に惑わず」とある。これは禮記，大學篇の平天下・治國・齊家・修身・正心・誠意・致和・格物の所謂八條目の正心までと同じく，その次が誠意・致知・格物とある所が全性と體道となっているのである。然るに，後に述べる様に格物とは，人がその眞に徹，その眞實を天・神明に捧げること，かくして天・神明と同類相引し，交わり，一體化することであり，致知は天・神明と一體化したものの能力としての知を發揮することであり，誠意は眞實に徹することであるから，これ等は全性と體道と，及び全性し體道したものの能力とに該當するのである。この様に，淮南子，詮言訓と大學篇とには殆ど全く一致するものがあるのである。

34）前掲『中國古代における人間觀の展開』，P. 444

35）楠山春樹『道家思想と道教』，（平川出版社，1992）所收の「聖王と仙王」を參照。

36）前掲「『莊子』天下篇の〈內聖外王〉について」，P. 113・張恆壽『莊子天下篇注疏四種』，（華夏出版，2009）所收の「論莊子天下篇的作者和時代」P. 408 を參照。

37）堀池信夫〈『老子』玄宗注疏の「理身」と「理國」」（『筑波中國文化論叢』，第 24 號，2005），PP. 17–74 を參照。

参考文献

赤塚忠（1974）『全釋漢文大系 16 莊子上』集英社.
赤塚忠（1980）『全釋漢文大系 17 莊子下』集英社.
池田知久（1983）『莊子上』學習研究社.
池田知久（1986）『莊子下』學習研究社.
王先謙（1974）『莊子集解』臺灣・三民書局印行.
郭慶藩 撰（1961）『新編諸子集成 莊子集釋』中國北京・中華書局.
周啓成 校注（1997）『莊子鬳齋口義校注』中國北京・中華書局.
服部宇之吉 校訂（1911）『莊子翼』富山房.
福永光司（1966）『中國古典選 7 莊子 內篇』朝日新聞社.
福永光司（1966）『中國古典選 8 莊子 外篇』朝日新聞社.
福永光司（1967）『中國古典選 9 莊子 外篇 雜篇』朝日新聞社.
方勇 撰（2012）『莊子纂要』中國北京・學苑出版社.
牧野謙次郎（1914）『漢籍國字解全書 莊子上』早稲田大學出版部.
牧野謙次郎（1914）『漢籍國字解全書 莊子下』早稲田大學出版部.

研究ノート

ヘンリー・フィールディングの家族観

澤　田　孝　史

Henry Fielding’s View of a Family

SAWADA, Takashi

Abstract

The purpose of this research note is to show how Henry Fielding thinks a family with children should be. In this research note, *Joseph Andrews* and *Jonathan Wild* are discussed. Fielding’s ideal family is the Heartfree family of *Jonathan Wild*. Fielding writes some families in these two novels. In most of the families, male characters have problems. Henry Fielding is thought to spend his childhood in “a dysfunctional family.” So, his ideal family is that parents love and protect their children, and prevent them from being anxious and nervous.

キーワード：ヘンリー・フィールディング，『ジョゼフ・アンドルーズ』，『ジョナサン・ワイルド』，家族，機能不全家族

目　次

はじめに
1. 『ジョゼフ・アンドルーズ』と『ジョナサン・ワイルド』について
2. フィールディングの家
3. 機能不全家族
おわりに

は じ め に

ヘンリー・フィールディング（Henry Fielding, 1707 ～ 1754）[1)]が1742年2月22日に出版した『ジョ

ゼフ・アンドルーズ』（*Joseph Andrews*）[2] と，この約1年後の1743年4月7日に出版した『ジョナサン・ワイルド』（*Jonathan Wild*）[3] にはいくつもの家族が描かれている。本研究ノートは，それらの家族の中でも両親と子供から成る家族の描写を通して，親子関係や家族をフィールディングがこれら2作品の執筆当時どのように考えていたのかを考察したものである。

1.『ジョゼフ・アンドルーズ』と『ジョナサン・ワイルド』について

『ジョゼフ・アンドルーズ』のアダムズ牧師のベッドでの寝る位置は，

> アダムズはベッドを手探りで探し，寝具を静かにめくって，これはアダムズ夫人が長いあいだ彼に習慣づけてきた決まりである，そっと入り込み，体をベッドの隅の支柱の上に置いた，そこは，この善き女性がずっと彼に命じてきた場所であった。[4]

これはこの時期のフィールディングの家族観の一端を表す象徴的な箇所である。

『ジョゼフ・アンドルーズ』のウィルソンは，「私には最高の妻と三人のかわいい子供たちがおります。この子供たちには親としての心からの愛情を持っています」と妻と子供たちへの強い愛情を公言し，[5] 妻の判断力を重んじ，妻と子供たちと一緒にいることを最上の幸せと考えていることを口にする。[6] これらの言葉通り，ウィルソンの家族の様子は「アダムズとジョゼフとファニーは，ウィルソン夫妻の互いへの態度と，夫妻の子供たちへの態度，さらには子供たちの両親への従順で優しい態度に示される愛情に……魅せられた」というものであった。[7] ウィルソンの家では，親が子供たちを思いやり，子供たちが親を思いやっているのである。

ウィルソン夫人については結婚前からウィルソンは「申し分ない」（Perfections）ことを知っていた。[8] 困窮するウィルソンへの彼女の態度は慈善心に満ちていた。彼の求婚に対する彼女の態度からは，彼女に分別があり，常識をわきまえ，社会のことをよくわかっていることがうかがえる。ウィルソンは彼女の判断力と決断のおかげで幸せになれたので，それらを尊重している。この夫と妻の力関係は，対等というより夫が妻を上に置いているのである。アダムズはウィルソンの家族を「あれが黄金時代の人々が送っていた暮らし方だと断言」した。[9] しかし，これはフィールディングの考えではなく，アダムズの考えである。

フィールディングは『ジョナサン・ワイルド』のハートフリー一家を理想の家族として，最後の章で次のように描いている。

> ……ハートフリー，妻，二人の娘，娘婿と孫は，ハートフリーは孫を数人授かったのだ，一軒の家に全員が一緒に暮らし，そのうえお互い同士非常に仲がよく，愛情がこもっていたので，近所から「愛の家族」と呼ばれている。[10]

家族が互いを思いやりながら一つ屋根の下に暮らすことがフィールディングの理想であることが示されていると言える。

ハートフリーは奉公人フレンドリーに，自分の妻のことを「女性の中で最も優れた」と言い，[11] さらに「あぁフレンドリー，お前は妻の善良さをはっきりとわかってくれていたが，彼女の人格に何の欠点も無いことをよくわかっているのは私だけなのだよ」と語っているところから，[12] ハートフリーは妻を軽んじていないことが示される。

（拘禁されていた場所で）ハートフリーが妻を目にした瞬間，両目が突然の歓喜に輝いた。しかし，それはほんのわずかの時間であった。というのも，絶望がまたその両目を曇らせたからである。彼はすぐに妻と子供たちへの強い不安の言葉を口にするのを抑えられなかったのである。妻としては，夫の不安を減らそうと……最善を尽くした。[13]（かっこ内筆者）

ハートフリーは自分のことよりも妻と子供たちのことを気づかっているのである。これは妻も同様であった。ハートフリー夫人は，海上で嵐に遭った時「愛する夫と子供たちを残していく以外には死ぬことについて何の不安も持たなかった」のである。[14] 彼女は「夫と子供たちに自分の幸せを置く」女性である。[15] 常に二人は子供たちのことを考えていたのである。そして夫と妻が互いを思いやっていることが描かれている。つまり，ハートフリー夫妻は少なくとも対等であるということがわかる。また，二人が子供たちに愛情を注いでいることは次のところからもわかる。

……彼が幸せで仕事がうまくいっていた頃，彼と妻は一緒に話をするのが好きなのだが，彼らが子供たちの将来の財産用に貯めていた蓄えの話題は，その中でも最も楽しい話題の一つであったのだ。[16]

ハートフリーは，拘禁されている家で自分と夜一緒に居たいと言う妻に，「彼は子供たちのことを思って，彼女の考えを認めなかった。彼は，子供たちをこの混乱している時に召使いに託すことには同意しなかった」のである。[17]

子供たちからハートフリーへの愛情は，ワイルドが「前日ハートフリーの子供たちが父親から泣きながら引き離されて連れて行かれるのを見た時，少し心が苦しくなった」ほどであった。[18] そして，子供たちは親のために精一杯戦うのである。

役人たちがこのあわれな男ハートフリーのところに来た時，彼らはその男が幼い子供たちと見苦しい様子で遊んでいるのに気づいた。彼の次女は彼の両膝の上にいて，長女は彼から少し離れたところでフレンドリーと遊んでいた。役人のうちの巡査は，とても好人物なのだが，職務については見事なくらい厳格で，ハートフリーに自分の任務を伝えた後，「同行しやがれ，その小さな私生児は教区に遺産として残していけ（というのも，彼は子供たちが私生児だと思っていたので，そう口にしたのである）」と言った。ハートフリーは自分を重罪だとする令状があると聞いてとても驚いたが，フレンドリーが顔に出したほどの不安は示さなかった。ハートフリーの長女は，巡査が父親をつかむのを見るとすぐに遊ぶのを止めて，父親のところに駆けつけると，わっと泣き出し，「かわいそうなパパにひどいことをしちゃダメ」と大声で叫んだ。他の悪党の一人が，ハートフリーの膝から次女を荒っぽく引き離そうとしたが，ハートフリーがさっと立ち上がり，その男の襟首をつかみ，脳みそと言えるものをその男が持っていたら一撃で無くなってしまったかもしれないくらい激しくその男の頭を壁にたたきつけた。[19]

子供は父親を守ろうとし，父親は子供への暴力を許さず，毅然として戦った。ハートフリーは相手に殺しかねないほどの攻撃を加えたのである。

アダムズについて見てみる。彼は家の外では尊敬されており，また愛されている。

村人たちはこの善人（アダムズ）の助言に従った。実際のところ，彼の言葉は彼の教区では

法律同然であった。というのも，ひたすら心の中で教区の住民たちのためを思ってきたということを三十五年間変わらぬ態度によって彼らに示してきていたので，彼らは何かあった時には彼に意見を求め，しかも彼の意見に反した行動をとることはまずなかった。[20]（かっこ内筆者）

一方でアダムズが家の中で威厳が無かったことは，冒頭の引用で示したとおりである。彼が身を置いた「ベッドの隅の支柱の上」とはベッドの一番端のことであり，妻が中心部に寝ていたということである。また，彼が寝具をめくる際に「静かに」とあることから，音を立てて妻を起こさないようにとしつけられていることがわかる。アダムズの家では，夫と妻は対等というよりも，妻が上なのである。それは一つにはアダムズが自分の身の回りのことすら満足にできないからである。彼は説教集を出版するためにロンドンに向かいながらも，その説教集を忘れていたのである。

……鞍袋の中の，彼が説教だと勘違いしていたのは三枚のシャツと一足の靴と他の生活必需品であった。これらは，夫は旅行に説教よりもシャツを必要とするだろうと思ったアダムズ夫人が気をつかって入れておいた物だった。[21]

アダムズが旅行する際，必要な物を荷造りするのは妻であった。アダムズは50歳にもかかわらず，こうしたことができないのである。妻にとっては世話を焼かねばならない，手のかかるもう一人の子供のような存在でしかない。また，妻は夫のこうした点をよくわかっていて，うまく助けている。アダムズは，世俗的な面をすべて妻がやってくれるからこそ，体面を崩さずに生活できていられるのである。

アダムズは金銭感覚が無く，浮世離れしている。子供たちの将来の生活について現実的に考えているのは妻である。アダムズの年収は23ポンドなので，財産は残してあげられないから，せめて勤め口を見つけてあげようという妻の子供たちへの愛情が次のように描かれている。

ジョゼフとファニーの恋人同士がドアのところに来たのは，ちょうどアダムズ牧師と妻が長い議論を終えたところであった。実を言うと，この議論は，この若い二人をめぐってのことだったのだ。というのも，アダムズ夫人は，自分の家族の不利益になることは絶対にしないという，あの無分別ではない人々の一人か，あるいはおそらく自分の子供たちに食べ物を与えるためには良心をも欺くような良き母親の一人であった。彼女は長女がスリップスロップの後任になるのを見，次男をブービー夫人の力で消費税収税吏にしたいと長く思っていた。彼女にとって，この二つは，断念することを考えるのは耐えられない期待だったので，夫がファニーのことでブービー夫人の考えにひどく頑なに反対するのを見て，非常に不安になった。彼女は次のように言った「すべての男性にとって，家族のことを第一に考えるのは義務なのです。しかも，その男に妻と六人の子供がいれば，他人のことに出しゃばらずに，自分の家族の面倒をみて，養うことはその男にとっての十分な務めなのです。自分より上の階級の人々への従順な振る舞いを説教でいつもしきりに誉めていた人が，自らの行動で正反対の振る舞いの例を示す悪事を働くことになるのです。……」[22]

アダムズの妻は現実をしっかりと考えている。アダムズは彼女に好きなようにさせてもらっているだけである。アダムズとジョゼフの会話を聞いていた妻がアダムズに意見をする場面を次にあ

げる。

「……妻を愛するのは罪深いことではありません。いや，死ぬほど妻を溺愛することすら罪深いことではないのです」とジョゼフは言う。「いや，そうじゃないんだよ」とアダムズ。「もちろんすべての男性は妻を愛さねばならない。そうしろと命じられているからね。だが，我々は妻を節度と分別を持って愛さねばならないのだよ」とアダムズ。「私は精一杯努力しても罪を犯すと思います。というのも，節度をもって愛するなんてことは私にはできっこありません」とジョゼフ。「お前は愚かで子供みたいなことを言うねぇ」とアダムズは大声で言う。二人の話のこの部分を聞いていたアダムズ夫人が，次のように言う，「なんてことを言うのよ，あなたの方がもっと愚かなことを言っているわ。夫が妻を非常に巧みに愛することができるというような教えを絶対に説教しないでとお願いするわ，あなた。この家にそんな説教を書いたものがあるのを知ったら，必ず燃やしますよ。もしあなたが精一杯私を愛してくれていると信じていなかったら，私は自分からあなたを憎み，軽蔑すべきだったと言えると断言します。まあ，あきれた。本当に素晴らしい教えだわ。妻には，夫に対し，できるだけ多く自分を愛せと強く要求する権利があるのです。そうしない夫は罪深い悪党なのです。ジョゼフさんは妻を愛し，妻を安心させ，妻を大事にするなどと約束しないのですか。私はその全部をつい昨日繰り返したかのように覚えているし，絶対に忘れないって言えるわよ。それに，私はあなたが実践していることを説教していないのはよくわかっています。と言うのも，あなたは私を愛し，大事にしてくれる夫です。それが真実なのですよ。だから，なんであなたはこの若い人の頭にそんな間違ったたわごとを吹き込もうとするのかわからないわ。彼の言うことを聞かないで，できるだけ良い夫になってね，ジョゼフさん，そして全力で妻を愛してもあげてね」。[23]

ここでアダムズ夫人が口にした「罪深い悪党」（sinful Villain）や「全力で」（with all your Body and Soul）は，彼女がアダムズの領分である宗教面にまで踏み込んだ発言をしていることを示している。信仰についてまで妻が主導権を握っているのである。しかも，彼女はこの発言を，子供がいる前で夫に言ったのである。アダムズは父親としての威厳を損なわれた上に，聖職者としての威厳まで妻に台無しにされたのである。

アダムズの長女は，アダムズに以下のような発言をする。

「それにお父さん，ジョゼフとファニーという他人をあなたの子供たちの口にあるパンを食べるためにここへ連れてくるなんて，すごくひどいわ。あの人たちにうちへ来てからずっとお父さんは食べさせてあげているじゃない。それに，もしかしたらそれどころか，どうあってももう一ヶ月あの人たちを食べさせるかもしれないんじゃない。いくら彼女がきれいだからと言って，お父さんはあの人にお肉を食べさせなければならないの。……私はあんな家なしのあばずれ女に，百万のお金があったとしても，いいえ，彼女が餓死しかかっていようとも，半ペニーもあげるつもりはないわ」[24]

長女は金銭がいかに自分たちの生活に影響するかをわかっているのである。父親が好きなようにしたら家族が食べるものに困るという不安が現実化するので，それを防ぎたい一心で母親と同種の発言をするのである。それは，親は子供に不安を与えないようにしなくてはならないことを伝えている。

前述の長女の発言を聞いたアダムズの息子のディックは次のように言う。

ディックは「僕はお姉ちゃんよりもあの人（ファニー）の方が好き。だってあの人，お姉ちゃんたちの誰よりもきれいなんだもん」と言った。「あの人が，生意気ね」と長女は言って，ディックの横っ面を殴った。これをアダムズは，その時ジョゼフとファニーと行商人が一緒に戻ってこなければ，おそらく怒っただろう。[25]（かっこ内筆者）

アダムズは，妻が自分の命令に従わなかった時に，妻は夫に服従しなければならないと聖書を引き合いに出して主張した。これに対し妻は，

妻は「教会の外で聖書について議論するのは冒涜ですよ，そうしたことは説教壇で語られるのがたいへんふさわしいのであって，普通の会話の中でそれについて議論するのは不敬ですよ」と反論した。[26]

アダムズは力関係では自分が妻より上であると主張しても，実質的には妻が上なのである。また，彼は妻に従うことを受け入れているのであるが，自分と妻がそうした力関係になっているのをまったくわかっていないのである。

アダムズの妻は，夫への自分の態度が子供たちに与える悪影響を理解していない。母親の，父親への態度を見ている長女は，力関係では父親より母親が上であり，父親を軽んじてよい存在だとみなしている。それゆえアダムズの信仰の拠り所である「慈善」を，彼の目の前で軽んずる発言を何ら臆することなく行ったのである。しかも暴力をふるえば父親が怒るのをわかっているにもかかわらず，その目の前で弟の「横っ面を殴った」のである。家庭内でアダムズには威厳が無いどころか，存在感さえきわめて希薄であることがはっきり示されている。冒頭であげたベッドでのアダムズの位置は，家庭での彼のこうした点を象徴的に表していると言えるのである。

これまでハートフリー，ウィルソン，アダムズの家族を見てきた。ここでもう一家族見てみる。

ジョゼフの育ての母親は，夫が軍務で長く家を留守にしていた間にジプシーに実の子を連れ去られ，代わりにジョゼフが残されていたので，彼を育てた。その後夫が帰宅した際のことを彼女は次のように語る。

……その子はここにいる私たちの娘より二, 三歳年上だと思います。……そしてあなたはその子を見た時，年齢のことは全く気にしないで，「元気な男の子だ」と言いました。だから私はあなたがその子の年齢のことにまったく気づかないのを見て，あなたが私と同じくらい彼をかわいがらないといけないので，誰にもこのことを話さなくても良いだろうと思いました。[27]

夫は自分の子供の年齢が合わないことに気がつかなかった。父親の子供への無関心さが明らかにされている。彼は，連れ去られた自分の娘が判った際も「アンドルーズじいさんは，特段の感情も示さずにファニーを祝福し，キスをしたが，朝煙草を吸わなかったので，煙草が欲しいとひどく愚痴った」だけであった。[28] そして，実の子が連れ去られていた件を妻が隠していたことについて妻を咎めなかった。夫が子供のことにまったく関心が無いことを裏付けている。ここからは，親子間に強い絆があるとは思えない。子供から見て父親は心理的に存在していなかったと思われる。

2. フィールディングの家

フィールディングの生い立ちを概観する。[29]

1707年4月22日にフィールディングは長男として生まれた。両親の結婚は駆け落ちのようなものであったらしく，フィールディングの祖父母は娘婿にあまり良い印象を抱いてはいなかった。

フィールディングが生まれる直前に彼の母方の祖父は遺言を作成した。この遺言は，義理の息子すなわちフィールディングの父親を排除した内容になっていた。この祖父は1710年に亡くなった。

フィールディングの父親は軍人であった。父親は家を不在にすることが多く，それも長期にわたることがあったとされる。[30]

フィールディングには次々に妹や弟が生まれた。フィールディングの母親が病気になり，1718年には，おばが看病と育児の手伝いのために同居した。しかしフィールディングの母親は彼が11歳になる直前に亡くなった。

フィールディングの父親は，祖父の遺言に反して遺産を使ったために祖母を怒らせた。さらにフィールディングの母親の死後1年もしないうちに再婚したようであり，フィールディングたちの住む家に新しい妻を連れて来た。これ以後父親側の人間と祖母側の人間が対立し始め，家の中には「憎しみ，怨恨，恐怖に染まったぞっとするような雰囲気があった」と考えられている。[31]

1719年にフィールディングはイートン校に入学した。

1721年に祖母はフィールディングの父親を告訴した。裁判は1722年に判決が出て，父親は全面的に負けた。

母親の死から結審までの間，この親族同士の争いは，イートンにいたとは言え，どれほどフィールディングの心を悩ませたであろうか。クロス（Wilbur L. Cross）は，フィールディングは法廷での争いを知っていて，それに悩まされていたに違いないと考えている。[32] バティスティン（Martin C. Battestin）は，フィールディングの幼少時代を「波乱に満ちた」と形容している。[33]

3. 機能不全家族

斎藤学は，10歳から12歳を「思春期のプレ段階」とし，12歳から15歳を「思春期前期」としているので，[34] フィールディングは思春期に入ったころに前述の親族同士の揉め事に巻き込まれたと言える。

斎藤は「親としての機能を果たさない親がいる家族のこと」を「機能不全家族」と定義している。[35] 斎藤は「お父さんが仕事依存症で家族を顧みない」家を「家族の機能に不全をきたしているような家」だとも述べている。[36] 信田さよ子は「家族関係がうまく機能しない家」を「機能不全家族」だと述べている。[37] フィールディングの家族で特徴的なのは，母親が亡くなる前から父親は家に不在がちであったことである。

星野仁彦によれば「理想的な父親に必要な条件」とは「子供との温かいふれあい（コミュケーション）（原文ママ）と父親としての権威を兼ね備えて」いることであり，[38] そして父親は「いざという場では威厳を示すことのできる姿勢が必要」であると述べている。[39]

ハートフリーとウィルソンの違いは，ウィルソンの長女の愛犬が，荘園領主の息子に殺された時の言動に示されている。

> 父親と母親が長女の悲しみを減らそうとしている時，アダムズはこん棒をつかんだ。ジョゼフが止めなかったら荘園領主の息子の後を追って飛び出しただろう。しかしながらジョゼフもアダムズの口までは抑えることができなかった。アダムズは「ごろつき」という言葉にひどく力を込めて口にし，「追剥ぎよりも絞首刑にされるのがふさわしい，自分があいつを懲らしめたかった」と言った。……「あの男の父親は財産が有り過ぎて争うことはできない」とウィルソンは言った。[40)]

ウィルソンは荘園領主の息子に向かっていかなかった。懲らしめようとしたアダムズとの対比が重要である。ジョゼフが止めなければ，アダムズは喧嘩を挑んだことであろう。たとえ負けても，アダムズは平気であったろう。また，子供にとっては，勝ち負けよりも親の気持ちが大事なのである。何もしないでいる方が子供の心を傷つけたのではないか。

ウィルソンは，ハートフリーが娘のために暴力をふるったことと異なり，決定的な場面で父親としての役目を果たさなかった。ウィルソンは，親としていざという時に頼りになる存在ではなかった。父親として機能していないのである。

斎藤は「兄弟が生まれてくるというのも喪失になります。これは『母親の膝や乳房の喪失』です。逆に，兄弟がいなくなることも喪失になります」と述べている。[41)] フィールディングには次々と妹や弟が生まれた。そして妹のアンはフィールディングが9歳の時に亡くなった。フィールディングは「喪失」感を持ったことであろう。そして母親が亡くなった。斎藤は「親の死」は「喪失」であり，「トラウマになります」と述べている。[42)] 星野は「一五歳以前の両親の離別」という「小児期の『喪失体験』は子供の人格形成に大きな影響をおよぼ」すと述べている。[43)] 前述のように，母親の死後1年もたたないうちに父親は再婚したようである。妹を亡くし，さらには母親を亡くして，フィールディングら子供たちが不安になっていた時に父親は再婚して自分たちから去ってしまったのである。母親を亡くしたことに加えて父親の再婚という「喪失体験」はフィールディングたちにとって大きな心の傷になったのではないかと思われる。

フィールディングは父親を尊敬していたかもしれない。その父親と敵対する祖母とおばを憎んだかもしれない。ただ，祖母たちの意思に沿わなかった場合は，彼女たちが父親に向けていた怒りを，自分たちに向けるのではないかと考えると，その恐怖ゆえ，彼女たちに従わざるを得なかったであろう。祖母は義理の息子を訴えていることから気性の激しい人だったと思われる。だからその怒りが自分たちへ向けられることをフィールディングたちが怖れるのは当然であると言える。祖母たちの機嫌を損ねないようにしなければならないという不安と緊張感が彼らには絶えずあったであろう。彼女たちの言う通りにすることが，自分たちが生きていく唯一の方法だと考えても不自然ではないと思われる。意に沿わなければ彼女たちは自分たちの保護者でいてくれなくなるわけである。フィールディングたちは自分たちだけではなにもできないような状況にあった。

そしてフィールディングたちは祖母たちの期待に応えて父親と継母を憎めば，祖母たちの機嫌が良くなると知ったことであろう。「子どもは本来親の気持ちをかばうものなので，親の不快感や心の痛みを感じ取ったその子は，親に喜ばれることだけを表現するようになっていく」とアン･W･スミスは述べている。[44)] その結果絶えず彼女たちの顔色をうかがっていなければならなかったであろう。祖母たちから向けられる愛情は父親側に付かないという条件のもとに与えられていることにフィールディングも気づいたであろう。祖母たちのこうした態度は愛情ではなく，支配以外の何物でもない。

家の中に祖母側の人間と父親側の人間がいるため，常に緊張をはらんでいたのであろう，子供たちの気の休まる，安全な居場所は無かったのではないかと思われる。「家族の機能の最も大切な部分は『安全な場所』としての機能でしょう。機能不全とは安全感のない家族ともいえます」と信田は述べている。[45] フィールディングの家族は，父親が心理的に不在であることと祖母たちの顔色をうかがいながら暮らさねばならないという点で機能不全家族であったことに加えて，「安全感のない」という点でも機能不全家族であったと言える。フィールディングには安心して心身を預けられる人物が周りにいなかった。彼は非常に孤独だったのではないだろうか。

おわりに

アダムズ，ウィルソン，ジョゼフの育ての父親はいずれも父親として機能していなかったが，母親がしっかりしているので，外見上は家族としての形をなしていた。アダムズ一家の場合は，妻の能力が勝っているため，家族の中での夫の威厳が低下あるいは無くなっているとも言えるが，妻が，子供たちが不安を感じないようにしているので，問題のある家族としては描かれていない。親は子供に不安を与えないことが家族の条件であり，家庭が安心していられる場所でなければならないとフィールディングは考えていることがわかる。

フィールディングが『ジョゼフ・アンドルーズ』と『ジョナサン・ワイルド』の執筆当時，理想の家族としたのはハートフリーの家族であった。親が子供を守り，かつ将来のことを考え，子供に愛情を注ぐことを家族としての必要な条件とフィールディングは考えたのであろう。これらは母親の死後のフィールディングの育った家庭には無いものであった。彼は，ハートフリー一家のような家族であって欲しいと子供の頃に思ったことを忘れずにいて，その思いを作品で表現したと思われる。

注

1）本研究ノートでは，フィールディングと表記した場合は，ヘンリー・フィールディングを指す.

2）テキストにはHenry Fielding, *Joseph Andrews*, ed. Martin C.Battestin, Wesleyan University Press, 1967, を使用した．訳は拙訳であるが，『世界の文学 4 スウィフト　フィールディング』中央公論社，1966年，より朱牟田夏雄訳「ジョウゼフ・アンドルーズ」を参考にさせていただいた.

3）テキストにはHenry Fielding, *Miscellanies by Henry Fielding, Esq. Volume Three*, with an introduction and commentary by Bertrand A. Goldgar, the text edited by Hugh Amory, Clarendon Press · Oxford, 1997, を使用した．この本に「ジョナサン・ワイルド」は収録されているが，本研究ノートでは『ジョナサン・ワイルド』と記す．訳は拙訳であるが，『集英社版　世界文学全集 6 ケベード　ル・サージュ　フィールディング 悪漢小説集　大悪党 悪魔アスモデ 大盗ジョナサン・ワイルド伝』集英社，1979年，より袖山栄真訳「大盗ジョナサン・ワイルド伝」を参考にさせていただいた.

4）Fielding, *Joseph Andrews*, p. 334.

5）Fielding, *Joseph Andrews*, p. 224.

6）Fielding, *Joseph Andrews*, p. 226.

7）Fielding, *Joseph Andrews*, p. 227.

8）Fielding, *Joseph Andrews*, p. 222.

9）Fielding, *Joseph Andrews*, p. 229.

10）Henry Fielding, *Miscellanies by Henry Fielding, Esq. Volume Three*, p. 195. このページにある「愛の家族」（*the Family of Love*）の注は，“Fielding uses the same phrase in *The Author's Farce* (I. vii), the *Champion* (26 Feb. 1740), and *TJ*, p. 765. The phrase originally alluded to a sect of that name which began

in Holland and flourished in England in the 16th and 17th centuries; 'they held that religion consisted chiefly in the exercise of love, and that absolute obedience was due to all established governments, however tyrannical' (*OED*)" となっており，ここでどういう意味で使われているかについての判断は示されていない．*the Family of Love* について，*Oxford English Dictionary*, second edition, on CD-ROM Version 4.0. 2009. には "family of love" で "a sect which originated in Holland, and gained many adherents in England in the 16th and 17th c.; they held that religion consisted chiefly in the exercise of love, and that absolute obedience was due to all established governments, however tyrannical" と記されている．

ロックウッドは『オーサーズ・ファース』（*The Author's Farce, 1730*）におけるこの言葉の使用に関して「この言葉はここではなんら宗派的な意味合いは無いと思われる」（Henry Fielding, *Plays Volume I, 1728-1731*, edited by Thomas Lockwood, Clarendon Press · Oxford, 2004, p. 238n）と述べている．また，コウリーは「この言葉は歴史的な特別な意味合いを持っているが，フィールディングはそれを知らなかったか気にしていなかったようである」,「明確な軽蔑的な意味を持たせずに『オーサーズ・ファース』,『ジョナサン・ワイルド』および『トム・ジョーンズ』で使っている」と述べている（Henry Fielding, *Contributions to The Champion and Related Writings*, edited by W.B. Coley, Clarendon Press · Oxford, 2003, p. 202）．筆者もコウリーと同意見である．なお,『トム・ジョーンズ』（Henry Fielding, *The History of TOM JONES A FOUNDLING*, with an introduction and commentary by Martin C. Battestin, the text edited by Fredson Bowers, Wesleyan University Press, 1975）の765ページにある注は，"Cf. Mrs. Moneywood, the landlady in *The Author's Farce* (1730), who tells Luckless that before he came, 'We were the Family of Love' (I. vi〔*sic*〕). In *Jonathan Wild* (IV. xvi) Fielding describes the Heartfrees this way. Originally, the phrase was another name for the Familists, a religious sect founded in the sixteenth century by Henrick Niclaes." となっており，ここでどういう意味で使われているかについての判断は示されていない．

11）Fielding, *Miscellanies by Henry Fielding, Esq. Volume Three*, p. 137.
12）Fielding, *Miscellanies by Henry Fielding, Esq. Volume Three*, p. 137.
13）Fielding, *Miscellanies by Henry Fielding, Esq. Volume Three*, pp. 70-71.
14）Fielding, *Miscellanies by Henry Fielding, Esq. Volume Three*, p. 79.
15）Fielding, *Miscellanies by Henry Fielding, Esq. Volume Three*, p. 51.
16）Fielding, *Miscellanies by Henry Fielding, Esq. Volume Three*, p. 92.
17）Fielding, *Miscellanies by Henry Fielding, Esq. Volume Three*, p. 75.
18）Fielding, *Miscellanies by Henry Fielding, Esq. Volume Three*, p. 148.
19）Fielding, *Miscellanies by Henry Fielding, Esq. Volume Three*, pp. 126-127.
20）Fielding, *Joseph Andrews*, pp. 48-49.
21）Fielding, *Joseph Andrews*, pp. 92-93.
22）Fielding, *Joseph Andrews*, p. 306.
23）Fielding, *Joseph Andrews*, pp. 310-311.
24）Fielding, *Joseph Andrews*, pp. 322-323.
25）Fielding, *Joseph Andrews*, p. 323.
26）Fielding, *Joseph Andrews*, p. 323.
27）Fielding, *Joseph Andrews*, p. 337.
28）Fielding, *Joseph Andrews*, pp. 339-340.
29）フィールディングの生い立ちについては拙著『ヘンリー・フィールディング伝』春風社，2010年，をもとにしている．
30）Battestin, Martin C. with Battestin, Ruthe R., *Henry Fielding: A Life*, Routledge 1993. pp. 16-18.
31）Battestin, *Henry Fielding: A Life*, p. 31.
32）Cross, Wilbur L., *THE HISTORY OF HENRY FIELDING*, New Haven Yale University Press. 1918. p. 35.
33）Battestin, *Henry Fielding: A Life*, p. 52.
34）斎藤　学『「家族」という名の孤独』（講談社＋α文庫）講談社，2000年，138ページ．
35）斎藤　学『アダルト・チルドレンと家族——心のなかの子どもを癒す』学陽書房，1996年，81ページ（以

下，斎藤『アダルト・チルドレンと家族』と略す）.
36）斎藤『「家族」という名の孤独』125ページ.
37）信田さよ子『「アダルト・チルドレン」完全理解』三五館，1996年，54ページ.
38）星野仁彦『機能不全家族（アダルト・チルドレン）——心が折れそうな人たちへ……』アートヴィレッジ，2007年，279ページ（以下，星野『機能不全家族（アダルト・チルドレン）』と略す）.
39）星野『機能不全家族（アダルト・チルドレン）』85ページ.
40）Fielding, *Joseph Andrews*, p. 228.
41）斎藤『アダルト・チルドレンと家族』195ページ.
42）斎藤『アダルト・チルドレンと家族』193ページ.
43）星野『機能不全家族（アダルト・チルドレン）』74ページ.
44）アン・W・スミス（斎藤　学監訳・和歌山友子訳）『アダルト・チルドレンの子どもたち』誠信書房，2005年，20-21ページ.
45）信田『「アダルト・チルドレン」完全理解』55ページ.

本研究ノートは2015年3月14日同志社大学で行われた「十八世紀英文学研究会」の例会における口頭発表に加筆・修正をしたものである.

研究ノート

高度外国人材育成に向けたビジネス日本語の授業とは
――タイのＡ大学卒業生および企業への各種調査結果から――

鹿　目　葉　子
大　橋　真由美

Business Japanese Classes for Training Highly Skilled Foreign Professionals
— Survey Results of Thai University Graduates and Japanese Enterprises Study —

KANOME, Yoko
OHASHI, Mayumi

Abstract

To ensure international competitiveness for Japanese enterprises, it is necessary to have highly skilled professionals who are university graduates and have professional skills or knowledge. According to a study by Kubota (2015), only about 40% of foreign students who want to work in Japan can actually be employed. One of the reasons is Japanese language proficiency. Therefore, the authors of this study included Japanese language proficiency required by Japanese enterprises and also Business Japanese classes taught at university as critical issues. The authors analyzed the requirements to hire foreign students by Japanese enterprises from former studies and conducted a survey by questionnaire to Japanese enterprises in Thailand and Thai university graduates. The results found that foreign students required high Business Japanese language skills. The authors propose a Japanese language study program that utilizes a structure for Business Japanese classes based on Kamiyoshi and Tsunekawa’s theory as an approach to Business Japanese education (2010).

Keywords: ビジネス日本語，学び，産学連携，高度人材，日本語教師の役割

目　次

1. はじめに
2. 先行調査
3. 調査の概要
　3.1　調査目的
　3.2　調査対象者
　3.3　調査方法
4. 結果と分析
　4.1　タイの日本企業のアンケート調査
　4.2　タイの日本企業就業者のアンケート調査
5. 考察
6. おわりに

1. はじめに

高度な専門的知識や技術を有する高度外国人材の受入促進・定着率向上は我が国の成長戦略の重点課題の一つであり，日本企業にとって国際競争力強化のためには国籍に関わらず多様な人材の活用が求められている（株式会社ディスコキャリタスリサーチ，2016）。

福嶋（2016）は，高度外国人材に関して明確な定義は確立されていないというが，「大学卒以上で，専門的な技術あるいは知識を有する優秀な人材」と定義した場合，日本の大学・大学院への留学生がこれに相当する。久保田（2015）によると，日本の日本企業に就職を希望している日本滞在の留学生は約6割だが，そのうちわずか4割しか就職できないのが現状であるという。これは，我が国の政策にとって望ましい状況とはいえない。留学生が就職できない要因には日本独特の就職活動の形態と日本語能力が挙げられている。

そこで，筆者らは日本語能力に焦点をあて，日本企業が求める日本語能力とは何か，大学において日本語能力を高めるためにどのような授業を展開するべきかを問題提起として，先行調査のデータ分析，タイの日本企業，およびタイの日本企業に就職したA大学（以下A大）卒業生にアンケート調査を実施した。その結果をもとに，ビジネス日本語の授業について考える。

2. 先行調査

2016年，株式会社ディスコキャリタスリサーチ（以下DISCO）はインターネット調査法を用いて，全国主要企業18,575社に外国人留学生／高度外国人材の採用に関する企業調査を実施し，628社から回答を得た。回答した企業のうち，大卒以上の高度外国人材を雇用した経験がある，または雇用予定のある企業は61.7％であり，2017年度の採用を予定している企業は，製造業が55.6％，非製造業が63.7％であった。これらの企業が外国人留学生に求める日本語能力は高く，内定時，文系の学生には48.4％の企業が，理系の学生には43.8％の企業がビジネス上級レベル以上（**表1**参照）を求めている。また，入社後のそれは，文系の学生の場合，81.5％，理系の学生の場合，76.4％となっている。

表1のビジネス上級レベルは，**図1**のBJT J1に相当する。また，採用時にJLPT（日本語能力試験）の基準（**表2**参照）を設けている企業は45.6％であり，そのうちN1を求める企業は24.0％，N2を求める企業は14.9％であった。

次に，2012年の株式会社クオリティ・オブ・ライフの調査では，企業（調査回答企業433社のうち製造業39.3％，非製造業60.7％）が最も注目している点に日本語能力があり，面接時の「聞く力」と「話す力」，就業後の社内におけるコミュニケーション能力，ビジネスで使用される尊敬語・謙譲語・丁寧語の使い分けやビジネス用語，日本企業文化，ビジネスマナーなどの高い日本語能力が必要であるという。また，JLPTのN1レベル以上を求める企業は84.5％で，そのうち57.1％はJLPTでは計れないさらに上位レベルの日本語能力が必要であると回答している。JLPTのN1レベル以上が測定できるテストとしてBJTビジネス日本語能力テスト（**図1**参照）がある。

DISCOとクオリティ・オブ・ライフの調査から留学生の日本語能力をJLPTだけではなくBJTビジネス日本語能力テストを使用して測る企業もあり，高度な日本語能力を採用時から求める企業

表1　日本語コミュニケーションレベル（DISCO 2016の調査より）

ネイティブ相当	＝どのようなビジネス場面でも日本語による十分なコミュニケーション能力がある
ビジネス上級レベル	＝幅広いビジネス場面で日本語による適切なコミュニケーション能力がある
ビジネス中級レベル	＝限られたビジネス場面で日本語による適切なコミュニケーション能力がある
日常会話レベル	＝限られたビジネス場面で日本語による最低限のコミュニケーション能力がある
ほとんど求めない	＝日本語によるビジネスコミュニケーション能力はほとんどない

表2　日本語能力試験のレベル

N１	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる
N２	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え，より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる
N３	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる
N４	基本的な日本語を理解することができる
N５	基本的な日本語をある程度理解することができる

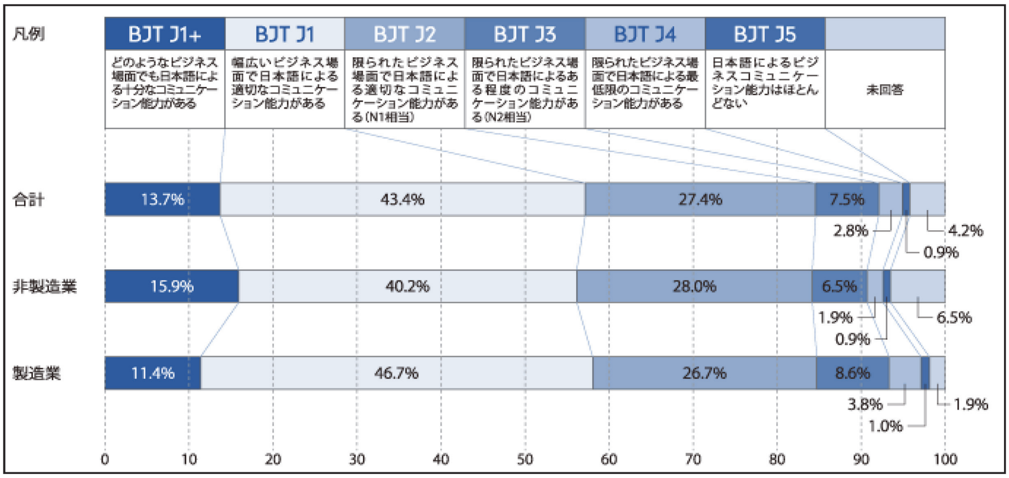


図１　高度外国人材の採用時にもとめる日本語コミュニケーションレベル
（クオリティ・オブ・ライフ「平成24年日本企業における高度外国人材の採用・活用に関する調査」より）

が多いことがわかる。面接時の「聞く力」と「話す力」に関しては大学を含めた日本語教育機関において，大学での学習に必要な日本語教育として養うことが可能である。一方，就業後の社内におけるコミュニケーション能力やビジネス上で求められる日本語能力は，大学において取り組む必要があり，留学生のキャリアパスという観点から，ビジネスに焦点をあてた新たなカリキュラムを立てていくことが急務といえる。

3.　調査の概要

3.1　調査目的

本調査は以下の２点に関してアンケート調査を対象者に実施し，その結果を分析考察し，今後の大学における日本語の取り組み方について考察することを目的とする。

①タイの日本企業がタイ人日本語学習者に求める日本語能力について

②Ａ大卒業生が日本企業勤務において必要だと考える日本語能力について

3.2　調査対象者

2013年，文部科学省は「世界の成長を取り込むための外国人留学生の受け入れ戦略（中間まとめ）」を提示し，重点地域の一番目にASEANを挙げている。また，筆者らの勤務する大学ではベトナム，インドネシア，タイなどの東南アジアからの留学生が多く，母国へ戻って日本企業に就職を希望している学生もいることから筆者らの１人（鹿目）がタイの大学に勤務していた際，Kanome・Yoshimine（2015）の調査協力者であり，盤谷日本人商工会議所に登録されているタイの日本企業31社を対象とした。その内訳は図２のとおりである。

国際交流基金（2011）の調査によると，タイの各教育機関では卒業生の追跡調査は行なわれていない（Kanome・Yoshimine, 2015）。そこで，筆者らの１人（鹿目）が勤務していたＡ大日本語主専攻の卒業生で日本企業に就職し，連絡がとれた６名を対象とした。なお，この６名はKanome・Yoshimine（2015）の調査においての協力者でもある。

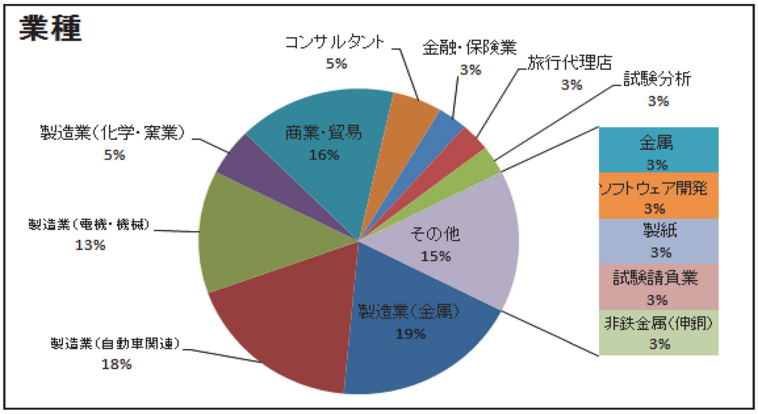


図２　タイの日本企業の業種

3.3　調査方法

本調査では，3.1に関するアンケート（**別紙1参照**）を作成し，web上またはアンケート用紙にて回答を記入してもらった。

4. 結果と分析

4.1　タイの日本企業のアンケート調査

まず，社内での日本人従業員とタイ人従業員のコミュニケーション方法について質問をした。その結果，英語，タイ語，日本語のうち，2言語以上を組み合わせてコミュニケーションをとっており，社内では意志疎通程度の日本語能力があれば良いと考えている。一方，社外（他の日本企業）向けの日本語能力についての質問では，タイ人従業員に高度な日本語能力を求めていることがわかった。企業が考える高度な日本語能力とは，ビジネス場面で必要なビジネス会話や顧客へのメール対応のためのビジネスライティングである。

高度な日本語能力を求める理由として，タイ人従業員を日本人従業員のパートナーと考えており，ASEAN諸国の労働者を取りまとめていく役割を果たす高度人材として，社外との取引や対応を将来的に任せていくという意向があるからだという。

さらに，企業は日本事情（文化社会），ASEAN事情，企業文化等を高度な日本語能力とともに大学の授業科目として取り入れたほうが良いと回答していた。しかし，各企業ともJLPTのレベルに関しては特に言及していなかった。

上記から，企業内でのコミュニケーション能力としては，高度な日本語能力を求めていないが，ビジネス上では，ビジネス会話やビジネスライティングといった高い日本語能力を求めていることがわかる。

4.2　タイの日本企業就職者（A大卒業生）のアンケート調査

A大日本語主専攻の卒業生の就職先における職種は，カスタマーサービスプロフェッショナルと言った日本語での会話を必要とするものから，企業間におけるビジネス文書を書く事務系の職種まで幅広い。

まず，就職した後で在学中に学習しておくべきだった科目について質問をした。その結果，上位にビジネス会話，ビジネスライティング，発音，日本事情（文化社会）が挙げられた。ビジネスライティングと日本事情（文化社会）を挙げた理由には，仕事上，書類を作成することが多く，お客様との対応に日本に関する知識があると有利に働くからと回答した。次に，仕事上，役に立っている科目についての質問結果であるが，上位に日常会話，発音，ビジネス会話，作文が挙げられた。作文を挙げた理由として，簡単なビジネスメールやメモ，文を書くことが求められるからと回答していた。在学中に卒業生が選択した科目によって回答に多少のずれが見られるが，「ビジネスライティング」や「作文」といった「書く」能力，「ビジネス会話」や「日常会話」といった「話す」能力は必須といえる。また，「発音」は相手に不快感を与えないためや誤解を生じさせないために大切だと認識していると考えられ，「日本事情（文化社会）」は，回答理由から，ビジネスをスムーズに進めていく上で必要な科目だと考えていることがわかる。

5. 考察

先行調査，1と3から，企業はビジネスに直結した高い日本語能力を高度人材に求めており，その能力を養うためのビジネス日本語の授業形式について考える必要がある。

そこで，まず，ビジネス日本語の授業を実施しているタイおよび日本の各2大学を無作為に選出した。そして，そこでのビジネス日本語の授業について概観し，ビジネス日本語の授業に求められる要因を探り，大学における新たなビジネス日本語の取り組み方について考えたい。

表3から，日本とタイの大学におけるビジネスの授業内容はほぼ同様であり，留学生の就職活動や就職後に焦点をあてた内容となっている。相違点として，タイの2大学では回数は少ないが現地の日本企業が授業に参加している。両大学の担当教師にその目的を聞いたところ，大学側と企業側とそれぞれ2つの目的があると回答した。大学側の目的の一つは，日本企業への就職を希望している日本語学習者に企業の人と交流をするチャンスを与えること，もう一つは，日本企業が何をしているのかを知らない日本語学習者に日本企業の実態や現状等を知ってもらうことである。

一方，企業側は，自社のアピールをすること，より良い人材を採用することが目的である。タイの2大学の教師は，いずれも企業経験者であり，企業の人の声を学習者に聞かせる場を作りたいと思っていたという。この講義は，両者が企業側との接点があったことから実現したものであり，一般的にタイの他大学のビジネス日本語の授業では，企業経験者ではない日本語教師（日本人あるいはタイ人）による講義授業のみである。

また，企業が求める高い日本語能力では，**表3**の授業内容以外に「日本文化（事情）」が挙げられている。**表3**の日本のC大以外の大学では，「日本文化（事情）」の授業が単独で実施されている。日本の企業に就職すること考えた場合，「日本文化（事情）」の知識は必要であり，ビジネス日本語の中に「日本文化（事情）」の授業を取り入れることも考慮に値すると思われる。

次に，ビジネス日本語を教えるにあたって，神吉・常川（2010）はビジネス日本語の教室と日本語教師には役割があると述べている。まず，ビジネス日本語の教室の役割は，1. 就職活動や企

表3　タイと日本の大学におけるビジネス日本語の授業について

	タイA大	タイB大	日本C大	日本D大
授業内容	ビジネスマナー／ビジネス文章作成／ビジネス会話／待遇表現	ビジネスマナー／ビジネス文章作成／ビジネス会話／商品企画発表／待遇表現／就職活動関連	ビジネスマナー／ビジネス文章作成／ビジネス会話／待遇表現	面接／ビジネス文章作成／ビジネス会話／ビジネスプレゼンテーション／待遇表現／経済用語
目的	ビジネス場面で必要となる日本語能力（語学および企業文化）の習得を目指す	就職活動およびビジネス場面で必要となる日本語能力（語学および企業文化）の習得を目指す	ビジネス場面で必要となる日本語能力（語学およびマナー等）の習得を目指す	ビジネス場面において必要となる日本語や企業文化，異文化理解力等の習得を目指す
その他	・中上級レベルの4年生以上対象 ・選択科目 ・日系企業の方による講義を導入（1～2回度）	・中上級レベルの4年生対象 ・日系企業の方による講義を導入（1～2回度）	・上級レベル ・希望者	・上級レベル ・選択科目

業に関する適切な情報提供，2. 経験の整理をしたり具体的な場面からいくつかの解決法を見出す力を育成したりする研修，3. 多様な人と知り合う場を提供することであるという。そして，日本語教師の役割は，①情報に留学生がアクセスする橋渡し，②留学生がプロジェクト学習から得た経験を学びへつなげること，③多様な人々とのネットワークの構築であるという。③には教室へのゲストの参加も含まれる。

留学生にとって，前述のビジネス日本語の教室の役割1は「情報収集の場」，役割2は「成長の場」，役割3は「人間関係形成の場」に言い換えられる。また，日本語の教師の役割1は「企業へのインターフェース」，役割2は「ファシリテーター」，役割3は「コーディネーター」と捉えられる。筆者らは，上述をもとに図式化（**図3参照**）を試みた。

また，神吉・常川（2010）は，ビジネス日本語教育の取り組みについて，ビジネスコンテンツをいかに教えるかということではなく，人が学ぶということはどういうことか，人を育てるということはどういうことかを直接的に問うてくるものだと述べている。社会・企業からの留学生教育への要望は高く，日本語教育が「学ぶということの本質」をどう追求していくかが重要であるという。

では，「学ぶ」とはどういうことなのか，「学ぶということの本質」とは何を意味するのだろうか。

佐々木（2012）によると，「学ぶ」とは人生を何度も生きるために「学び続ける」ことであり，たんに情報を「知る」段階から，「理解する」「疑う」「超える」という段階を経て，はじめて「勉強」は「学び」に発展するという。また，組織行動学者のデービッド・コルブ（Kolb, 1983）は，経験学習モデルを提示している。これは，「経験」，「省察」，「概念化」，「試行」の順番で「学び」を経験から体系化したものである。「経験」は，具体的な経験をすること，「省察」は，何が起こったかを多様な視点で振り返ること，「概念化」は，他でも応用できるように概念化すること，「試行」は，新しい場面で実際に試してみることである。この経験学習モデルと同様に，企業における社員育成等にも応用されているものに，ジョン・グリンダー（John Grinder）とリチャード・バンドラー（Richard Bandler）によって提唱されたNLP（Neutro Linguistic Programming）があり，その

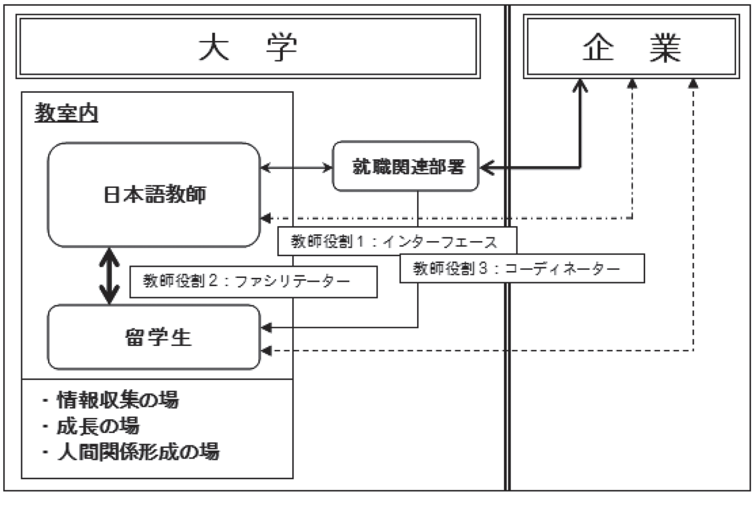


図３　ビジネス日本語の教室と日本語教師の役割図

中で，両者は「学び」を「学習の4つの段階」に分けて提示している。ジョセフ・オコナー（Joseph O'Conner）とジョン・セイモア（John Seymour）（1994）によると，それらは，第1段階・「無意識的無能＝知らない」，第2段階・「意識的無能＝知る，分かる」，第3段階・「意識的有能＝行う，できる」，第4段階・「無意識的有能＝無意識的にできる」であるという。この学習段階をもとに，「知る」，「わかる」，「行う」，「できる」，「わかちあう」の5つの段階に分けて提示しているものも昨今見られる。

さらに，齋藤（2011）は，人と対話をし，質問と答えを繰りかえすことから，そこに新しい意味が生まれ，その意味が生まれる瞬間を祝うのが，「学ぶ」ことの醍醐味であり，本質であると述べている。

上記から，「学び」とは「知る」ことから始まり，「経験」を通してある境地に達するための成長の過程であり，その本質は，「人」との関わりから生まれる「意味」を体感することであると考える。ビジネス日本語の授業において，ビジネスマナーやビジネス文書作成等のビジネスコンテンツを学習するだけでは，企業で働くための素養を身に着けることは困難だと思われる。

そこで，筆者らは，ビジネス日本語の教室と日本語教師の役割（図３参照），そして，「学ぶ」という観点から，ビジネス日本語の授業の仕組み（別紙２：図４）を考案した。

学びの段階を「知らない」から始まり，「知る」，「分かる」，「行う」，「できる」，「共有」の6段階とし，その各段階を授業内と授業外に分けた。また，留学生，日本語教師，就職関連部署，企業の各段階における役割も提示した。まず，授業内での「知らない」から「知る」への段階では，日本語教師には二つの役割がある。一つは，ビジネスマナーや文書作成等のビジネスコンテンツの提供である。もう一つは，留学生に必要な就職情報を提供するため，就職関連部署と留学生とのインターフェースの役割である。この段階での就職関連部署の役割は，ビジネス日本語の授業に必要と思われる情報の提供であり，企業の役割は就職関連部署との関係を密に情報の提供を行うことである。留学生は，今まで知らなかったビジネスコンテンツの知識や企業情報等を獲得し，「知る」段階に進む。

次の「わかる」の段階では，日本語教師は留学生の理解度に応じて，企業，就職関連部署へ追加情報を依頼するためのインターフェースの役割と，ビジネスコンテンツに対して留学生の理解が深まるように促すファシリテーターの役割を行う。ここでの就職関連部署と企業の役割は，追加情報の提供であり，企業にはビジネス日本語の授業への参加や講演等が挙げられる。留学生は，ビジネスコンテンツと企業で働くことの意味や企業内の仕事等を理解する段階に入る。前述までは，授業内で実施される内容である。

続いて，授業外であるが，「行う」と「できる」の二つの段階がある。「行う」は，留学生のインターンシップが相当する。ここでの日本語教師の役割は，就職関連部署からの情報や受け入れ企業からの申し出により，留学生と企業側をコーディネートすることにある。留学生はインターンシップ先で，「行う」と「できる」を繰り返し，自信と疑問をもってインターンシップでの経験を終わらせ，次の段階に進む。留学生のこの繰り返しの期間中，日本語教師は，企業側へ留学生の仕事に関する報告や相談を行うインターフェースの役割を行い，就職関連部署は，留学生からの報告を受け，課題や課題達成に向けたアドバイスや指導を行い，企業は，留学生の指導等を行う。

そして，インターンシップ後，授業内において「共有」の段階に入る。留学生は，インターンシップでの成果や疑問点，課題など他の留学生と共有する。その際，日本語教師は，他者との情報共有や意見交換を円滑，かつ深まるように授業を進めるファシリテーターと，就職関連部署と

企業への報告を行うインターフェースの役割を行う。就職関連部署は，日本語教師からの報告をもとに，今後の課題解決に取り組む。「共有」の段階に到達した時点で，ビジネス日本語に対する留学生の「学び」が終わるのではない。留学生は「共有」を通して，課題の解決方法を見出す。

つまり，その解決方法を「知り」，「わかる」ことで，再度，「行う」の段階に進んでいくのである。

この繰り返しの過程において，留学生は，「知る」・「わかる」の段階から『知識力』を，「行う」・「できる」・「共有」の段階から『協調性』，『思考力』，『主体性』，『コミュニケーション力』，『表現力』を身につけ，日本企業への就職に向けた日本語能力を養っていけると考える。

これらの日本語能力を身に付けさせるためには，ビジネス日本語の授業を「学び」の観点から捉え，日本語教師，就職関連部署，企業の産学連携を視野に入れた授業作りが求められると考える。

6. おわりに

本研究は，日本企業が求める日本語能力とは何かを探るために始めた。日本での先行調査，およびタイの日本企業とタイのA大卒業生へのアンケート調査から，企業は留学生に高い日本語能力を求めていることがわかった。筆者らは，その日本語能力を養うために，「学び」の観点を取り入れた，ビジネス日本語の授業の仕組みを考案した。産と学に線を引くのではなく，産と学が協力することで，高度人材の育成に近づくのではないだろうか。

Kanome・Yoshimine（2015）の調査では，企業に対し，日本語の授業の中で参加してみたい科目についての質問がある。その結果，ビジネス会話，ビジネスライティング，マーケティング，スピーチ，パブリックスピーキングが挙げられていた。また，どのような教師に教わった学習者を採用するのか，つまり，教師の資質に関する質問では，学習者にコミュニケーション力や忍耐力，幅広い物の見方，臨機応変さ，謙虚さ，先見の明，創造性，企画力，察知力などを身に付けさせる能力を持った教師と回答していた。

上記の回答から，現場で働いている企業人が，ビジネスに直結する授業に参加することで，即戦力に近い人材を育てることが可能であるだけではなく，教師の質の向上も望まれることが示唆される。

今後は，まず，ビジネス日本語の授業内容の具体化を図り，企業が求める日本語能力を身に付けさせる授業内容であるかを検証していきたい。

参考文献

鹿目葉子・吉嶺加奈子（2015）. What native Japanese teachers should offer: Survey results from questionnaire with students and Japanese companies. *Japanese Studies Journal*, 32(1), 15-32.

株式会社ディスコキャリタスリサーチ（2016）.「外国人留学生／高度外国人材の採用に関する企業調査＜2016年11月調査＞」1-14.

神吉宇一・常川早希子（2010）.「留学生の支援としてのビジネス日本語教育――アジア人材資金構想事業の取り組みから」『2010年日本語教育学会春季大会予稿集』306-311.

久保田学（2015）.「外国人留学生への就職支援の現状と対応策――大学に求められる外国人留学生キャリア戦略――」『ウェブマガジン留学交流』2015（3）Vol. 40，22-30，独立行政法人日本学生支援機構.

国際交流基金（2011）.「日本語教育国別情報　2011年度　タイ」『国際交流基金』.

齋藤　孝（2011）.『人はなぜ学ばなければならないのか』東京：実業之日本社.

佐々木毅（2012）.『学ぶとはどういうことか』東京：講談社.

福嶋美佐子（2016）.「外国人高度人材受け入れの現状と政策的課題――探索的調査研究――」『法政大学大学院公共政策研究科公共政策志林』第4号，155-173.

文部科学省（2013).「世界の成長を取り込むための外国人留学生の受け入れ戦略（中間まとめ)」.
オコナー･ジョセフ，セイモア･ジョン（1994).『NLPのすすめ:優れた生き方へ道を開く新しい心理学』チーム医療.
Kolb, D.A. (1983). Experiential learning: Experience as the source of learning and development. USA: FT Press.
株式会社クオリティ・オブ・ライフ（2012).「平成24年度アジア人財資金構想プロジェクトサポートセンター事業『日本企業における高度外国人材の採用・活用に関する調査』報告書」 https://issn.or.jp/pdf/surveydata_2012.pdf（2017年7月27日閲覧）
一般社団法人留学生支援ネットワーク「留学生就職支援の現状」https://ajinzai-sc.jp_situation.html（2017年7月25日閲覧）

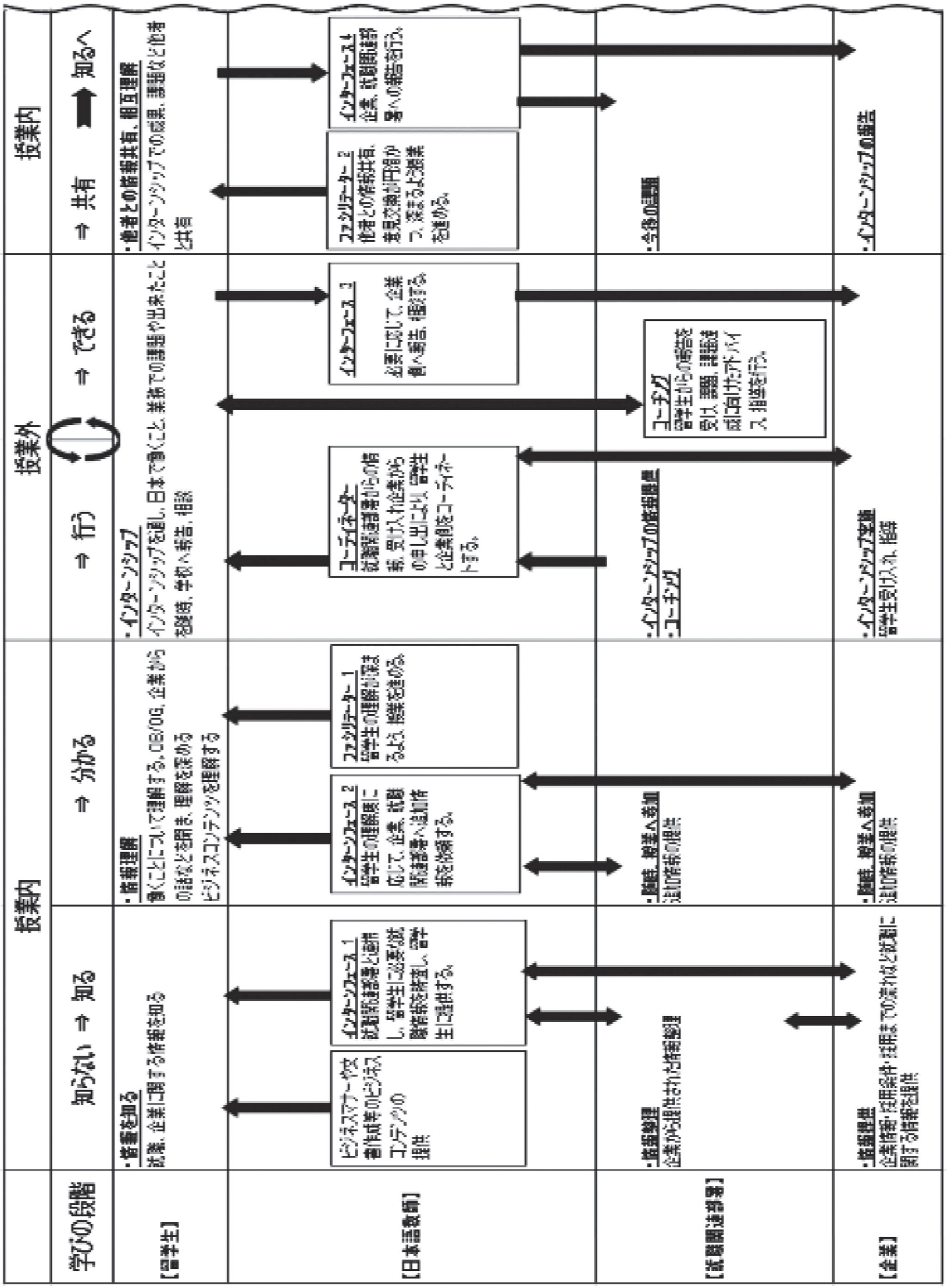
別紙１　アンケート調査内容：　タイ日系企業用

①業種
□製造業（自動車関連）□製造業（電機・機械）□製造業（金属）□製造業（繊維） □製造業（化学・窯業）□製造業（食品）□製造業（その他：　　　　　　　　　） □商業・貿易　□ホテル・宿泊業　□広告・出版・書籍　□金融・保険業　□百貨店・小売業　□教育・学習支援業　□土木・建設業　□レストラン・飲食業　□情報通信業　□旅行代理店　□航空・運輸業　□不動産業　□団体　□医療・福祉業　□その他：（　　　　　　　　）
②タイ人従業員と日本人従業員のコミュニケーション言語（日常会話）
□主にタイ語　□主に日本語　□主に英語　□タイ語と英語　□日本語と英語　□タイ語と日本語 □タイ語・日本語・英語のすべて　□その他（　　　　　　　　　　）
③業務上でのタイ人従業員と日本人従業員のコミュニケーション言語
□主にタイ語　□主に日本語　□主に英語　□タイ語と英語　□日本語と英語　□タイ語と日本語 □タイ語・日本語・英語のすべて　□その他（　　　　　　　　　　）
④日本語能力試験のレベル
□ N1　□ N2　□ N3　□ 特に要求しない　□ その他（　　　　　　　　　　）
⑤授業の中に取り入れたほうがよい科目
□日本事情（文化社会）□日本研究　□ビジネス会話　□ビジネスライティング　□翻訳　□通訳　□作文　□文学史　□映像メディアの日本語　□日常会話　□スピーチ　□発音　□パブリックスピーキング　□漢字学　□観光・ホテル日本語　□その他 （　　　　　　　　　　　）
【その他，ご意見等ございましたらご記入ください】

アンケート調査内容：　タイのＡ大学卒業生用

①現在、勤務している日系企業の職種と勤務年数
（１）職種： （２）仕事内容： （３）勤務年数：
②在学中に学習しておくべきだった科目
□日本事情（文化社会）□日本研究　□ビジネス会話　□ビジネスライティング　□翻訳　□通訳　□作文　□文学史　□映像メディアの日本語　□日常会話　□スピーチ　□発音　□パブリックスピーキング　□漢字学　□観光・ホテル日本語　□その他 （　　　　　　　　　　　）
③仕事上、役に立っている科目
□日本事情（文化社会）□日本研究　□ビジネス会話　□ビジネスライティング　□翻訳　□通訳　□作文　□文学史　□映像メディアの日本語　□日常会話　□スピーチ　□発音　□パブリックスピーキング　□漢字学　□観光・ホテル日本語　□その他 （　　　　　　　　　　　）
【その他，ご意見等ございましたらご記入ください】

別紙２：　図４　ビジネス日本語の授業の仕組み



執　筆　者　紹　介（掲載順）

水　野　厚　志	言語コミュニケーション学部	専　任　講　師	中国思想･哲学，中国語教育
澤　田　孝　史	経　済　学　部	教　　授	イ　ギ　リ　ス　文　学
鹿　目　葉　子	Japanese Language Institute	日本語専任講師	日　本　語　教　育
大　橋　真由美	Japanese Language Institute	日本語専任講師	日　本　語　教　育

編　集　後　記

『人文・社会学研究 第３号』が刊行の運びとなりました。中国哲学の論文，英文学の研究ノートと日本語教育の共同研究ノート各１本が収録されております。ご多忙の中，査読審査をしてくださいました学外，学内の先生方に深く感謝申し上げます。また，本号から編集を担当してくださっております東京プレスの鉢嶺裕子氏に心よりお礼申し上げます。号を重ねるごとにますます質の高い論集にすることができればと願っております。多くのご投稿をお待ち申し上げます。

（編集委員代表　佐用章子）

東京国際大学論叢　人文・社会学研究　第３号 2018（平成 30）年３月 20 日発行

［非　売　品］

編　集　者	東京国際大学人文・社会学研究論叢編集委員
発　行　者	高　　　橋　　　宏
発　行　所	〒 350-1197　埼玉県川越市的場北 1-13-1 TEL　（０４９）２３２－１１１１ FAX　（０４９）２３２－４８２９
印　刷　所	株式会社　東　京　プ　レ　ス 〒 161-0033 東京都新宿区下落合 3-12-18 3F

THE JOURNAL OF TOKYO INTERNATIONAL UNIVERSITY

Humanities and Sociology

No. 3

Articles

The Order of Ideologists in the Text “Tian Xia” of *Zhuang Zi* ………… MIZUNO, Atsushi

Research Note

Henry Fielding’s View of a Family ………………………………………… SAWADA, Takashi

Business Japanese Classes for Training Highly Skilled Foreign Professionals
—Survey Results of Thai University Graduates and
Japanese Enterprises Study— ……………………………………… KANOME, Yoko
OHASHI, Mayumi

2 0 1 8